

鳥取県がん検診実績報告書

平成25年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

はじめに

平成23年度がん検診受診者数は、平成22年度に比べ「胃がん」1,219人、「肺がん」3,031人、「乳がん」468人、「大腸がん」2,818人とそれぞれ増加しています。また、平成20年度の胃、子宮、肺、乳、大腸がん検診総受診者は延べ約17万6千人に対し、平成23年度の総受診者は延べ約19万1千人で、4年間で延べ約1万5千人の増です。

更に、国が示すプロセス指標と本県の各がん検診実績との比較を行ったところ、受診率の目標値50%達成はどの検診でも難しい状況の中、本県では全国平均に比べ約10ポイント上回る良い実績です。

要精検率は胃がん、子宮がん、乳がん検診においては、それぞれの指標をクリアしていますが、肺がん検診は国の要精検率許容値3.0%以下に対し、本県は5.1%と高く、大腸がん検診においても国の要精検率許容値7.0%以下に対し、本県は8.3%と高くなっています。肺がんについては、陽性反応的中度、がん発見率が高いことを踏まえると、精度に問題はないと思われます。

精検受診率は国の目標値90%以上には乳がん検診のみが達しています。その他の検診においても、許容値70%以上はクリアしています。陽性反応的中度、がん発見率はどの検診においても高い（良好な）数値を継続しており、本県はおおむね精度の高い検診がおこなわれていると思われます。

しかしながら、本県のがんの75歳年齢調整死亡率は、年々減少傾向にあるものの、全国平均と比較すると、過去10年以上にわたり高く、特に平成22年のがん死亡率は、全国ワースト2位となっています。

平成24年度、県は、県医師会はじめ県内外の委員11名で構成された「鳥取県がん対策推進評価専門部会」において、がん死亡率が高い要因について鳥取県がん登録や人口動態をもとに評価分析し、今後取るべき有効な対策等について検討が行われ、その結果を取りまとめた報告書を作成しました。それによると、①肝、胃、肺がんの死亡率が高い。その要因として、肝、胃、肺がんの罹患率が高いこと、肝炎ウイルス陽性率が高いこと。②50歳代から70歳代前半の男性で死亡率が高い。それを引き起こしていると思われる要因は、肝炎ウイルス陽性率、喫煙率が高いこと、検診受診率の低迷。③乳がんの死亡率が上昇傾向にある。その要因として、特に40歳～50歳代前半で全国平均より高い死亡率であること、検診受診率の低迷、としています。

これらの結果や、関係機関及びがん患者を含む県民の意見等を参考に、平成25年4月、平成25年度から29年度までの「第二次鳥取県がん対策推進計画」が策定されます。

鳥取県健康対策協議会においても、引き続き、鳥取県のがん検診の精度管理、指導を行いながら、既存のデータ解析だけでは掴みきれない点については、あらたな視点を加えながら、総合的ながん対策の検討を行って参りたいと存じます。

平成25年3月

鳥取県健康対策協議会

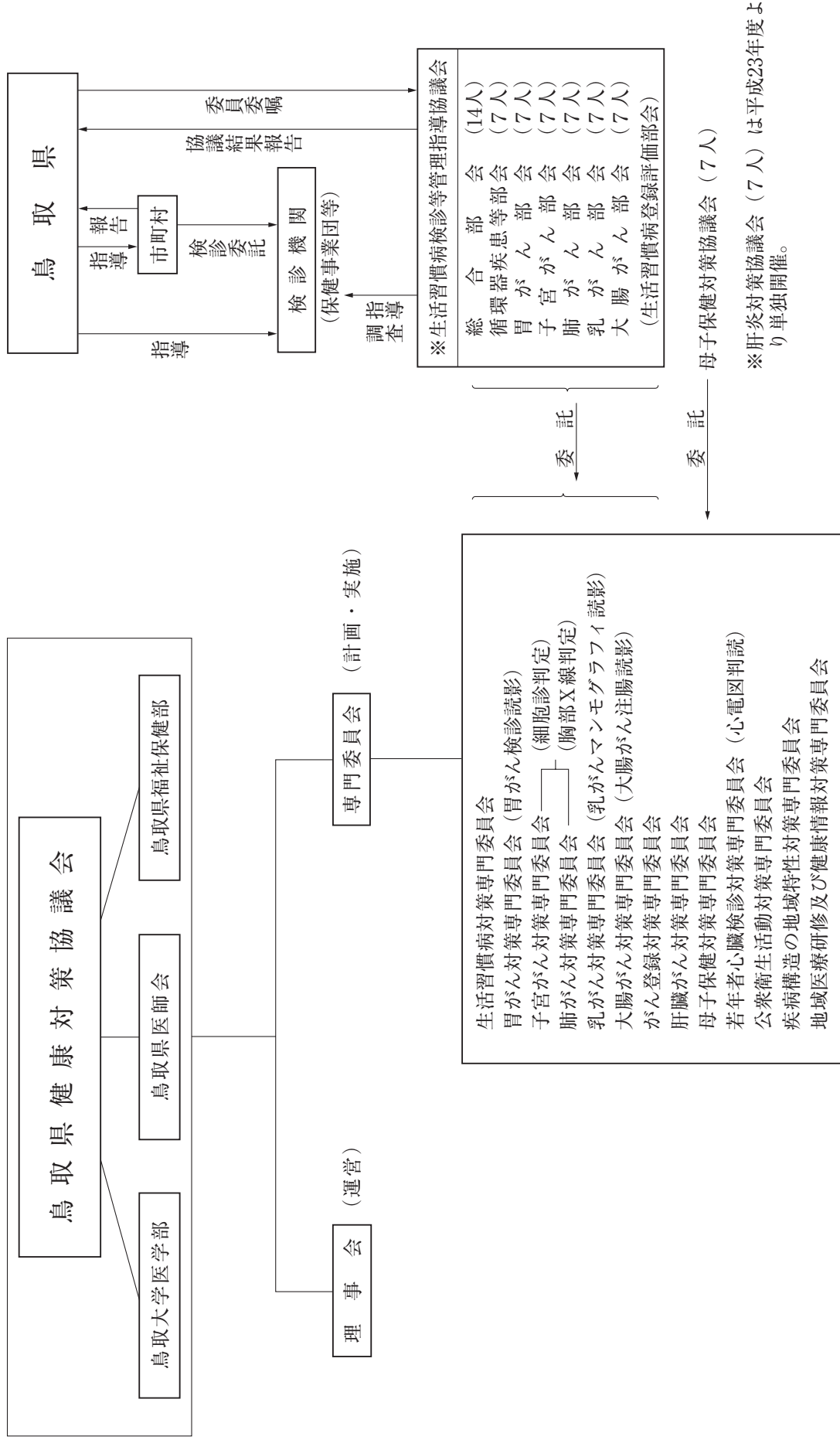
会長 岡本公男

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成23年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	16
3. 肺がん検診	25
4. 乳がん検診	39
5. 大腸がん検診	48
6. 肝臓がん検診	57
7. 全国がん検診実績との比較	68
III. 平成24年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	74
2. 子宮がん検診症例研究会報告	76
3. 肺がん検診症例研究会報告	77
4. 乳がん検診症例研究会報告	80
5. 大腸がん検診症例研究会報告	81
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	83
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	88
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	89

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 平成23年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上(子宮がん検診は20歳以上)・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

(「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。(同一人の隔年検診)

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：精密検査受診者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 が ん 検 診

1. 胃がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は190,556人のうち、受診者数はX線検査15,080人、内視鏡検査は29,435人で合計44,515人、受診率は23.4%で前年度に比べ微増であった。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は66.1%で、年々増加している。

検査の結果、胃がんであった者は159人発見され（X線検査24人、内視鏡検査135人）、がん発見率は0.36%であった。平成22年度全国平均がん発見率0.18%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.16%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.46%で約3倍も高い。

陽性反応適中度（がん/精検受診率）はX線検査2.3%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ7.7%であった。

確定調査の結果、確定癌は157例、発見癌率は0.35%であった。

- (1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は15,080人で、受診率は7.9%で年々減少傾向である。一次検診の要精検者は1,247人で、要精検率は8.3%。このうち、精密検査を受診したのは1,022人、精検受診率は82.0%であった。集団検診の要精検率7.6%。医療機関検診は11.1%で、依然として中部が26.6%と非常に高いことが課題である。精検結果は、胃がんであった者は24人で、胃がん発見率は0.16%であった。

国はプロセス指標として、要精検率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、医療機関におけるX線検査では要精検率が高く、また、よりきれいな写真を撮る技術指導が必要である。

- (2) 内視鏡検査は、15市町村で実施され、受診者数は29,435人で、検査結果は胃がんであった者は135人が発見され、発見率は0.46%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数1,759人で、組織診実施率6.0%で、東部8.1%、中部9.1%、西部3.3%で地域格差がある。

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成23年度に発見された胃がん及び胃がん疑い214例について確定調査を行った結果、確定胃がんは157例（一次検査がX線検査：車検診20例、施設検診4例、一次検査が内視鏡検査：133例）であった。発見癌率は0.353%であった。

調査結果は以下のとおりである。

- (1) 早期癌は126例、進行癌は31例であった。早期癌率は80.3%で、東部83.1%、中部81.0%、西部76.9%であった。西部は初回受診で進行癌が多かった。
- (2) 切除例は149例で、そのうち内視鏡切除が69例で全体の46.3%を占め、増えている。非切除例が8例で、手術拒否3例、手術不能5例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性99例、女性58例であった。70歳代が全体の約45%を占めている。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が56.3%で大半を占めている。進行癌では「1」、「2」が38.7%を占めている。また、分類不能の「5」は5例あった。
- (5) 切除例の深達度は「t1a」が81例、「t1b」が41例であった。
- (6) 切除例の大きさは2cm以内が40.7%であった。車検診では15.8%、施設検診では50.0%、内視

鏡検査では44.3%で、小さいものが見つかっている。

- (7) 早期癌の占拠部位では小弯が多くなっている。
- (8) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I aが14例で58.3%、stage I bが5例で20.8%、内視鏡検査ではstage I aが104例で80.0%、stage I bが5例で3.85%。stage IVが6例もあった。
- (9) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部3件、西部6件で、前年度の受診結果は異常なしが6例、胃ポリープ、癒痕性十二指腸潰瘍で精検不要が2件、精検未受診が1件であった。この症例については、地区読影会において症例検討を行って頂く。

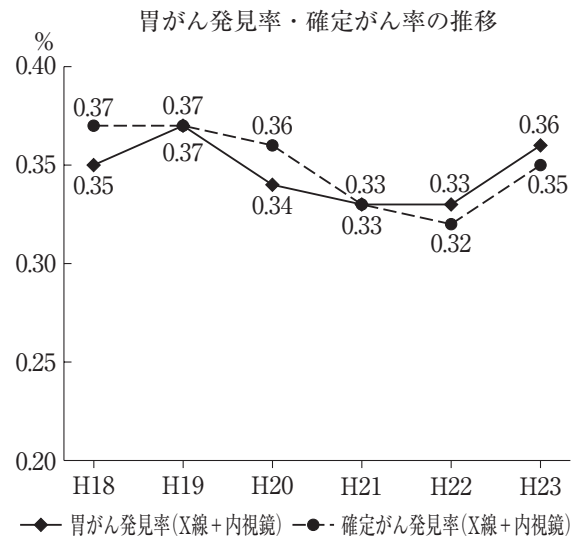
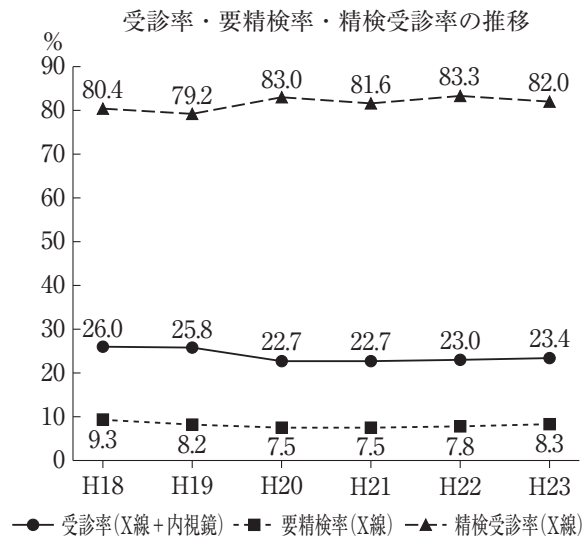
2～3年前は内視鏡切除が約30%であったが、46.3%と増えている。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		18 年 度			19 年 度			20 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			174,051			171,530			188,186
	受診者数(人) B	23,247	21,945	45,192	20,507	23,765	44,272	18,099	24,700	42,799
	受診率(%) C = B/A	13.4	12.6	26.0	12.0	13.9	25.8	9.6	13.1	22.7
一次検診結果	異常認めず(人) D	21,085			18,818			16,736		
	要精検者数(人) E	2,162			1,689			1,363		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	9.3			8.2			7.5		
精密検査	精検受診者数(人) G	1,738			1,337			1,131		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	80.4			79.2			83.0		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	46(11)	112(32)	158(43)	35(6)	131(31)	166(37)	31(5)	113(44)	144(49)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.20	0.51	0.35	0.17	0.55	0.37	0.17	0.46	0.34
	陽性反応適中度(%) K = I/G 指標:許容値1.0%以上	2.6			2.6			2.7		
確定調査結果	確定がん数(人) L	49	117	166	36	126	162	31	122	153
	確定がん率(%) M = L/B	0.21	0.53	0.37	0.18	0.53	0.37	0.17	0.49	0.36

区 分		21 年 度			22 年 度			23 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			188,186			188,186			190,556
	受診者数(人) B	17,352	25,449	42,801	16,082	27,214	43,296	15,080	29,435	44,515
	受診率(%) C = B/A	9.2	13.5	22.7	8.5	14.5	23.0	7.9	15.4	23.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	16,052			14,823			13,833		
	要精検者数(人) E	1,300			1,259			1,247		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	7.5			7.8			8.3		
精密検査	精検受診者数(人) G	1,061			1,049			1,022		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	81.6			83.3			82.0		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	29(6)	114(35)	143(41)	23(2)	119(35)	142(37)	24(5)	135(50)	159(55)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.17	0.45	0.33	0.14	0.44	0.33	0.16	0.46	0.36
	陽性反応適中度(%) K = I/G 指標:許容値1.0%以上	2.7			2.2			2.3		
確定調査結果	確定がん数(人) L	28	113	141	22	116	138	24	133	157
	確定がん率(%) M = L/B	0.16	0.44	0.33	0.14	0.43	0.32	0.16	0.45	0.35

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成23年度胃がんX線検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診 受診者数(人)		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数 d		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	239	510	11.1	12.6	12.1	20	21	219	489	8.37	4.12	5.47
45～49歳	2,326	3,853	192	460	8.3	11.9	10.6	19	19	173	441	9.90	4.13	5.83
50～54歳	3,058	4,974	245	644	8.0	12.9	11.1	16	30	229	614	6.53	4.66	5.17
55～59歳	4,908	8,189	455	937	9.3	11.4	10.6	52	53	403	884	11.43	5.66	7.54
60～64歳	9,854	13,797	1,139	1,837	11.6	13.3	12.6	115	100	1,024	1,737	10.10	5.44	7.22
65～69歳	11,061	14,574	1,052	1,471	9.5	10.1	9.8	118	104	934	1,367	11.22	7.07	8.80
70～74歳	11,588	16,049	1,052	1,450	9.1	9.0	9.1	118	115	934	1,335	11.22	7.93	9.31
75～79歳	11,797	17,672	864	1,250	7.3	7.1	7.2	98	117	766	1,133	11.34	9.36	10.17
80歳以上	15,558	35,092	594	689	3.8	2.0	2.5	62	70	532	619	10.44	10.16	10.29
計	72,308	118,248	5,832	9,248	8.1	7.8	7.9	618	629	5,214	8,619	10.60	6.80	8.27
合 計	190,556		15,080		7.9			1,247		13,833		8.27		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人)		精密検査 受診率 (%)			精密検査結果								胃がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f / d			異 常 認 め ず		その他の 疾 病		胃がんと 疑 い		胃がんと 疑 い		i = h / b			j = h / f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	16	14	80.0	66.7	73.2	5	5	11	9	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	14	15	73.7	78.9	76.3	3	8	11	7	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	10	20	62.5	66.7	65.2	4	4	5	16	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	41	39	78.8	73.6	76.2	13	7	27	31	0	0	1	1	0.220	0.107	0.144	2.4	2.6	2.5
60～64歳	90	85	78.3	85.0	81.4	8	25	81	60	0	0	1	0	0.088	0.000	0.034	1.1	0.0	0.6
65～69歳	94	90	79.7	86.5	82.9	11	19	77	69	1	0	5	2	0.475	0.136	0.277	5.3	2.2	3.8
70～74歳	100	90	84.7	78.3	81.5	14	20	82	68	1	1	3	1	0.285	0.069	0.160	3.0	1.1	2.1
75～79歳	87	104	88.8	88.9	88.8	12	16	69	86	1	0	5	2	0.579	0.160	0.331	5.7	1.9	3.7
80歳以上	54	59	87.1	84.3	85.6	4	18	47	41	0	0	3	0	0.505	0.000	0.234	5.6	0.0	2.7
計	506	516	81.9	82.0	82.0	74	122	410	387	4	1	18	6	0.309	0.065	0.159	3.6	1.2	2.3
合 計	1,022		82.0			196		797		5		24		0.159			2.3		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

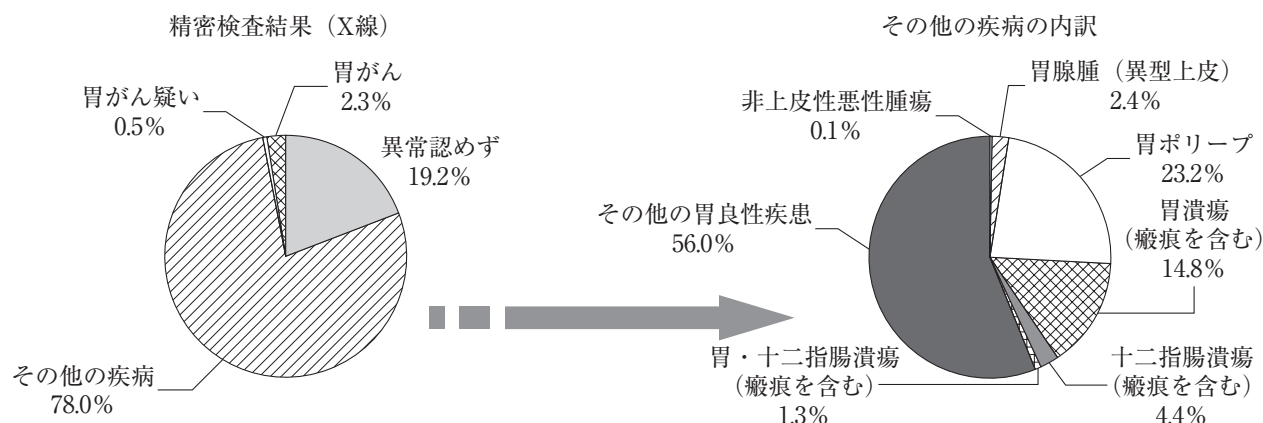
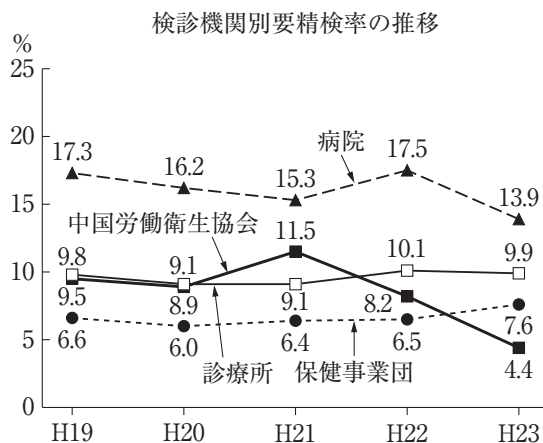
一次検診機関	一次検診 受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	4,554	7,189	457	440	4,097	6,749	10.04	6.12	7.64
中国労働衛生協会	124	171	8	5	116	166	6.45	2.92	4.41
病 院	325	587	49	78	276	509	15.08	13.29	13.93
診 療 所	829	1,301	104	106	725	1,195	12.55	8.15	9.86
計	5,832	9,248	618	629	5,214	8,619	10.60	6.80	8.27
合 計	15,080		1,247		13,833		8.27		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)			精密検査結果								胃がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がんf'		g' = f'/a'			h' = f'/d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	363	354	79.4	80.5	79.9	45	88	299	260	4	1	15	5	0.329	0.070	0.170	4.1	1.4	2.8
中国労働衛生協会	7	5	87.5	100.0	92.3	1	0	6	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
集団検診小計	370	359	79.6	80.7	80.1	46	88	305	265	4	1	15	5	0.321	0.068	0.166	4.1	1.4	2.7
病院	39	63	79.6	80.8	80.3	6	17	33	45	0	0	0	1	0.000	0.170	0.110	0.0	1.6	1.0
診療所	97	94	93.3	88.7	91.0	22	17	72	77	0	0	3	0	0.362	0.000	0.141	3.1	0.0	1.6
医療機関検診小計	136	157	88.9	85.3	86.9	28	34	105	122	0	0	3	1	0.260	0.053	0.131	2.2	0.6	1.4
計	506	516	81.9	82.0	82.0	74	122	410	387	4	1	18	6	0.309	0.065	0.159	3.6	1.2	2.3
合計	1,022		82.0			196		797		5		24		0.159			2.3		

検診機関別要精検率の推移(%)

一次検診機関	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
保健事業団	6.6	6.0	6.4	6.5	7.6
中国労働衛生協会	9.5	8.9	11.5	8.2	4.4
車検診小計	6.6	6.1	6.5	6.5	7.6
病院	17.3	16.2	15.3	17.5	13.9
診療所	9.8	9.1	9.1	10.1	9.9
施設健診小計	11.9	11.3	10.7	12.3	11.1
合計	8.2	7.5	7.5	7.8	8.3



4) 平成23年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員							
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%) E = D/A	施設検診	車検診	計	要精検率 (%) I = H/D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K = J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	がん疑い N	がん O	有所見者 P = M + N + O	がん発見 率(%) Q = O/D
鳥取市	57,433	2,041	1,467	3,508	6.1	161	166	327	9.32	280	85.6	37	237	0	6	243	0.171	2.1	
米子市	42,442	683	1,132	1,815	4.3	36	120	156	8.60	147	94.2	33	112	0	2	114	0.110	1.4	
倉吉市	17,700	1,158	51	1,209	6.8	96	13	109	9.02	80	73.4	22	58	0	0	58	0.000	0.0	
境港市	11,307	91	145	236	2.1	1	7	8	3.39	6	75.0	5	1	0	0	1	0.000	0.0	
岩美町	4,844	612	8	620	12.8	55	4	59	9.52	53	89.8	6	45	0	2	47	0.323	3.8	
八頭町	6,534	1,317	38	1,355	20.7	97	10	107	7.90	46	43.0	5	38	2	1	41	0.074	2.2	
若桜町	1,776	285	14	299	16.8	31	1	32	10.70	26	81.3	7	18	0	1	19	0.334	3.8	
智頭町	3,263	203	114	317	9.7	16	11	27	8.52	23	85.2	3	19	0	1	20	0.315	4.3	
湯梨浜町	5,964	581	4	585	9.8	62	1	63	10.77	60	95.2	16	43	0	1	44	0.171	1.7	
三朝町	2,767	412	1	413	14.9	40	0	40	9.69	30	75.0	5	25	0	0	25	0.000	0.0	
北栄町	5,729	829	6	835	14.6	69	3	72	8.62	62	86.1	13	45	2	2	49	0.240	3.2	
琴浦町	7,221	1,030	2	1,032	14.3	86	0	86	8.33	76	88.4	23	51	0	2	53	0.194	2.6	
南部町	4,221	440	60	500	11.8	20	1	21	4.20	18	85.7	1	17	0	0	17	0.000	0.0	
伯耆町	4,533	684	0	684	15.1	49	0	49	7.16	41	83.7	5	32	0	4	36	0.585	9.8	
日吉津村	995	213	0	213	21.4	11	0	11	5.16	6	54.5	2	4	0	0	4	0.000	0.0	
大山町	7,503	549	0	549	7.3	42	0	42	7.65	37	88.1	8	28	0	1	29	0.182	2.7	
日南町	2,966	366	0	366	12.3	16	0	16	4.37	12	75.0	2	9	0	1	10	0.273	8.3	
日野町	1,783	291	0	291	16.3	12	0	12	4.12	10	83.3	2	7	1	0	8	0.000	0.0	
江府町	1,575	253	0	253	16.1	10	0	10	3.95	9	90.0	1	8	0	0	8	0.000	0.0	
合計	190,556	12,038	3,042	15,080	7.9	910	337	1,247	8.27	1,022	82.0	196	797	5	24	826	0.159	2.3	
東部	73,850	4,458	1,641	6,099	8.3	360	192	552	9.05	428	77.5	58	357	2	11	370	0.180	2.6	
中部	39,381	4,010	64	4,074	10.3	353	17	370	9.08	308	83.2	79	222	2	5	229	0.123	1.6	
西部	77,325	3,570	1,337	4,907	6.3	197	128	325	6.62	286	88.0	59	218	1	8	227	0.163	2.8	

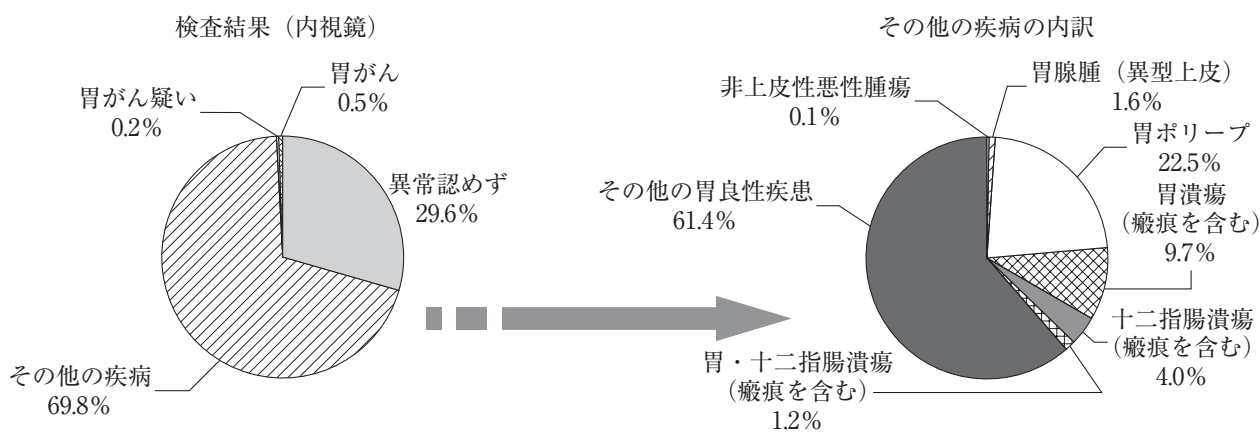
(3) 平成23年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数(人) a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	274	497	114	216	160	281	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	238	591	89	227	149	363	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000
50～54歳	349	840	96	296	252	540	0	2	1	2	0.287	0.238	0.252
55～59歳	595	1,273	160	410	430	859	2	4	3	0	0.504	0.000	0.161
60～64歳	1,725	2,871	424	906	1,290	1,955	2	6	9	4	0.522	0.139	0.283
65～69歳	2,217	3,110	522	991	1,674	2,110	9	3	12	6	0.541	0.193	0.338
70～74歳	2,376	3,399	571	1,081	1,780	2,305	2	4	23	9	0.968	0.265	0.554
75～79歳	1,884	2,828	493	889	1,377	1,921	2	3	12	15	0.637	0.530	0.573
80歳以上	1,774	2,594	451	774	1,296	1,798	6	4	21	18	1.184	0.694	0.893
計	11,432	18,003	2,920	5,790	8,408	12,132	23	27	81	54	0.709	0.300	0.459
合 計	29,435		8,710		20,540		50		135		0.459		

2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数(人) a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	3,152	4,621	462	932	2,663	3,670	10	9	17	10	0.539	0.216	0.347
診療所	8,280	13,382	2,458	4,858	5,745	8,462	13	18	64	44	0.773	0.329	0.499
計	11,432	18,003	2,920	5,790	8,408	12,132	23	27	81	54	0.709	0.300	0.459
合計	29,435		8,710		20,540		50		135		0.459		



3) 平成23年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検査結果別人員									
	受診者数 (人)	組織診 実施者数	組織診 実施率 (%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応 適中度 (%)
	A	B	C = B/A	D	E	F	G	H = E+F+G	I = G/A	J = G/B
鳥取市	10,936	881	8.1	1,956	8,900	20	60	8,980	0.549	6.8
米子市	9,970	394	4.0	3,743	6,184	4	39	6,227	0.391	9.9
倉吉市	1,160	97	8.4	570	585	3	2	590	0.172	2.1
境港市	2,408	0	0.0	936	1,457	1	14	1,472	0.581	0.0
岩美町	265	25	9.4	12	252	0	1	253	0.377	4.0
八頭町	474	47	9.9	63	410	0	1	411	0.211	2.1
若桜町	187	11	5.9	17	168	2	0	170	0.000	0.0
智頭町	289	16	5.5	6	281	0	2	283	0.692	12.5
湯梨浜町	775	102	13.2	340	424	7	4	435	0.516	3.9
三朝町	104	5	4.8	54	49	0	1	50	0.962	20.0
北栄町	511	46	9.0	245	261	4	1	266	0.196	2.2
琴浦町	1,007	75	7.4	466	533	4	4	541	0.397	5.3
南部町	925	41	4.4	164	757	2	2	761	0.216	4.9
伯耆町	209	11	5.3	35	172	1	1	174	0.478	9.1
日吉津村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江府町	215	8	3.7	103	107	2	3	112	1.395	37.5
合計	29,435	1,759	6.0	8,710	20,540	50	135	20,725	0.459	7.7
東部	12,151	980	8.1	2,054	10,011	22	64	10,097	0.527	6.5
中部	3,557	325	9.1	1,675	1,852	18	12	1,882	0.337	3.7
西部	13,727	454	3.3	4,981	8,677	10	59	8,746	0.430	13.0

(4) 平成23年度胃がん検診受診状況 (X線+内視鏡)

市町村名	対象者数 (人) A	受診者数				X線精密検査結果および内視鏡検査結果別人員						
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K = I / D	
鳥取市	57,433	3,508	10,936	14,444	25.1	1,993	9,137	20	66	9,223	0.457	
米子市	42,442	1,815	9,970	11,785	27.8	3,776	6,296	4	41	6,341	0.348	
倉吉市	17,700	1,209	1,160	2,369	13.4	592	643	3	2	648	0.084	
境港市	11,307	236	2,408	2,644	23.4	941	1,458	1	14	1,473	0.530	
岩美町	4,844	620	265	885	18.3	18	297	0	3	300	0.339	
八頭町	6,534	1,355	474	1,829	28.0	68	448	2	2	452	0.109	
若桜町	1,776	299	187	486	27.4	24	186	2	1	189	0.206	
智頭町	3,263	317	289	606	18.6	9	300	0	3	303	0.495	
湯梨浜町	5,964	585	775	1,360	22.8	356	467	7	5	479	0.368	
三朝町	2,767	413	104	517	18.7	59	74	0	1	75	0.193	
北栄町	5,729	835	511	1,346	23.5	258	306	6	3	315	0.223	
琴浦町	7,221	1,032	1,007	2,039	28.2	489	584	4	6	594	0.294	
南部町	4,221	500	925	1,425	33.8	165	774	2	2	778	0.140	
伯耆町	4,533	684	209	893	19.7	40	204	1	5	210	0.560	
日吉津村	995	213	0	213	21.4	2	4	0	0	4	0.000	
大山町	7,503	549	0	549	7.3	8	28	0	1	29	0.182	
日南町	2,966	366	0	366	12.3	2	9	0	1	10	0.273	
日野町	1,783	291	0	291	16.3	2	7	1	0	8	0.000	
江府町	1,575	253	215	468	29.7	104	115	2	3	120	0.641	
合計	190,556	15,080	29,435	44,515	23.4	8,906	21,337	55	159	21,551	0.357	
東部	73,850	6,099	12,151	18,250	24.7	2,112	10,368	24	75	10,467	0.411	
中部	39,381	4,074	3,557	7,631	19.4	1,754	2,074	20	17	2,111	0.223	
西部	77,325	4,907	13,727	18,634	24.1	5,040	8,895	11	67	8,973	0.360	

(5) 平成23年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確定胃癌数	8	3	60	5	0	16	7	1	57	157
癌発見率%	0.179	0.183	0.494	0.125	0.000	0.450	0.196	0.075	0.415	
	71 0.389			21 0.275			65 0.349			0.353
早期癌数	5	3	51	3	0	14	4	1	45	126
早期癌率%	59 83.1			17 81.0			50 76.9			
進行癌数	3	0	9	2	0	2	3	0	12	31
切除例	8	3	57	5	0	16	7	1	52	149
内視鏡切除例	1	2	34	0	0	9	1	1	21	69
非切除例	0	0	3	0	0	0	0	0	5	8

手術拒否：3 手術不能：5

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	0	5	28	43	23	99
女	1	3	11	27	16	58

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	0	0	1	0	0	2	1	0	1	5	4.0%
IIa	1	0	15	1	0	3	1	1	6	28	22.2%
IIc	2	2	28	1	0	8	2	0	28	71	56.3%
IIc+III	1	0	2	1	0	0	0	0	0	4	3.2%
IIa+IIc	0	1	1	0	0	1	0	0	4	7	5.6%
その他	1	0	4	0	0	0	0	0	6	11	8.7%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	5	3	51	3	0	14	4	1	45	126	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	9.7%
2	1	0	1	1	0	1	2	0	3	9	29.0%
3	1	0	3	1	0	1	1	0	2	9	29.0%
4	0	0	4	0	0	0	0	0	1	5	16.1%
5	1	0	1	0	0	0	0	0	3	5	16.1%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	3	0	9	2	0	2	3	0	12	31	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
t1	t1a	2	2	37	1	0	9	3	1	26	81
	t1b	3	1	13	2	0	5	1	0	16	41
t2	t2	3	0	1	0	0	0	0	0	6	10
t3	t3	0	0	2	1	0	1	1	0	3	8
t4	t4a	0	0	2	1	0	1	2	0	1	7
	t4b	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	計	8	3	57	5	0	16	7	1	52	149
	不 明	0	0	3	0	0	0	0	0	5	8

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車 検 診	0	3	3	15.8%	11	5	19	1
施 設 検 診	1	1	2	50.0%	2	0	4	0
内視鏡検診	22	32	54	44.3%	53	15	122	11
計	23	36	59	40.7%	66	20	145	12

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	22
M	8	2	52
L	4	2	35
全 体	0	0	0
計	12	4	109
不 明	0	0	1

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	6	0	53
大 弯	1	2	21
前 壁	2	1	19
後 壁	3	1	15
全 周	0	0	0
計	12	4	108
不 明	0	0	2

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	6
M	4	0	9
L	3	0	5
全 体	0	0	3
計	8	0	23
不 明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	3	0	6
大 弯	2	0	4
前 壁	1	0	3
後 壁	2	0	6
全 周	0	0	4
計	8	0	23
不 明	0	0	0

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線		内 視 鏡	
I a	3	3	48	3	0	14	4	1	42	10	4	104	14	58.3%	104	80.00%
I b	5	0	1	0	0	0	0	0	4	5	0	5	5	20.8%	5	3.85%
II a	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	5	0	0.0%	5	3.85%
II b	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0.0%	4	3.08%
III a	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	1	4.2%	2	1.54%
III b	0	0	1	1	0	1	2	0	0	3	0	2	3	12.5%	2	1.54%
III c	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	1	4.2%	2	1.54%
IV	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	6	0	0.0%	6	4.62%
計	8	3	59	5	0	16	7	1	55	20	4	130	24	100.0%	130	100.0%
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0		3	

表9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占拠部位	Stage	前年度受診結果	
東部	車	68	男	5	t2	tub1	55×35	M 小弯	I b	車	要精検（胃体部後壁・レリーフ集中）、精検査未受診
		59	女	3	t2	por2	24×20	M 前壁大弯	I b	車	異常なし
	内	73	男	2	t2	tub2	43×35	M 後壁	II a	内視鏡	異常なし
西部	車	75	男	2	t4a	por2	40×30	U 後壁	III a	車	異常なし
		78	女	3	t3	pap	16×15	L 後壁小弯	III b	車	異常なし
	内	81	女	1	t3	por1	40×30	U 後壁	II a	内視鏡	胃ポリープ・精検不要
		79	男	1	t3	pap	45×40	U 後壁	II b	内視鏡	癒痕性十二指腸潰瘍・精検不要
		60	男	5	t2	tub2	30×28	L 前壁	I b	施設・X	異常なし
		65	女	5	t2	por2	27×26	U 後壁	II a	車	異常なし

2. 子宮がん検診

1. 子宮頸部がん検診実績

平成23年度の対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）135,485人のうち、受診者数28,247人で、受診率20.8%であった。平成22年度より受診率は微増であった。平成21年度から始めた「女性特有のがん検診推進事業」は、特定年齢を対象に無料券を配布したことにより初回受診者が増加し、受診勧奨効果が上がっている。

30歳～54歳の受診率は目標の50%をほぼ達成している。過去3年間に検診を受診している経年受診者割合は73.8%であった。

要精検者数174人（判定不能で再検未実施となった者18人を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が22人であった。要精検率は0.62%で、そのうち、精検受診者数140人、精検受診率80.5%であった。平成22年度に比べ要精検者数は119人減少し、要精検率も0.41ポイント減少した。精検受診率は15.0ポイントも大幅に増加した。

平成22年度よりベセスダシステムを導入し、不良検体が多く発生したが、平成23年度は閉経後の受診者の検体採取はできるだけ綿棒ではなくブラシを使用するよう手引きの改正を行ったことや医療機関への個別指導等により要精検者数と再検未実施者数がかなり減少したものと考えられる。

精検結果は、がん23人、がん発見率（がん/受診者数）は0.08%、陽性反応適中度（がん/精検受診者数）は16.4%であった。異形成は76人（軽度42人、高度34人）であった。平成22年度に比べ、がんは3人増加し、異形成は29人減少した。

40歳未満の要精検率が高く、30歳代のがんは7人発見され、がん発見率も一番高かった。

国の指標は要精検率許容値1.4%以下、精検受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.05%以上、陽性反応適中度許容値4.0%以上である。鳥取県実績は精検受診率以外は指標をクリアしている。

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者28,247人中、体部がん検診対象者数は735人、一次検診会場での受診者は626人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は76人、受診者の合計は702人、受診率は95.5%であった。

一次検診の結果、要精検となった者8人、要精検率1.28%、精密検査受診者数は7人、精検受診率87.5%であった。精検の結果、子宮体部がんが4人、また医療機関での別途受診者から子宮体部がんが2人発見され、合わせると、がん発見率は0.85%であった。陽性反応適中度は57.1%であった。

子宮内膜増殖症が2件、また医療機関での別途受診者から子宮内膜増殖症が3件発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成23年度は子宮頸部癌21名で、0期15例、Ib期以上が6例であった。異形成は76例だった。なお、Ib期以上6例の検診歴は、初回4例、前年受診1例、2年前受診1例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は7例、子宮内膜増殖症は5例で、平成22年度に比べかなり多く発見されている。

4. その他

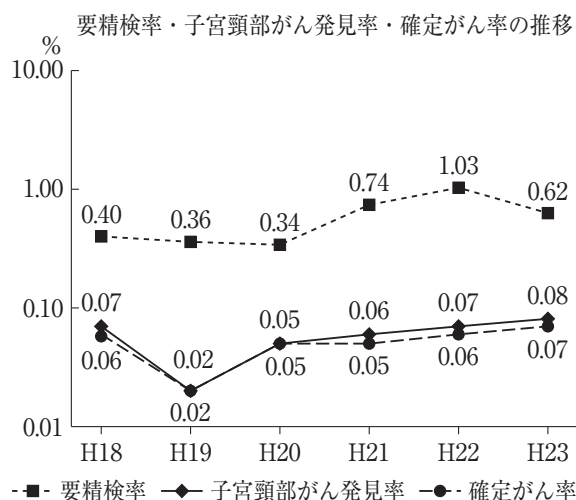
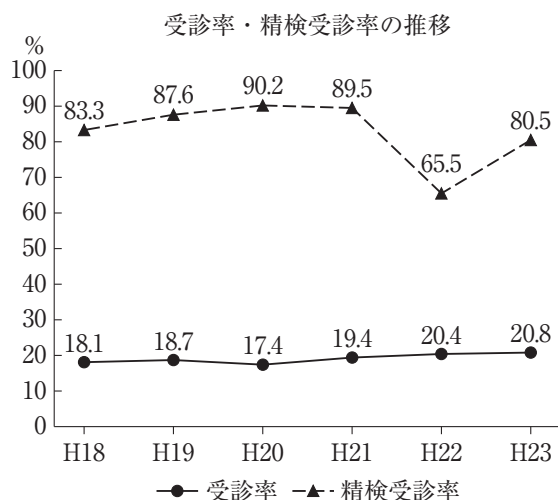
1) 平成23年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成23年度実績は、妊婦健康診査受診者4,795人中、子宮頸部がん検診受診者数4,680人、受診率97.6%で、要精検者数28人、要精検率0.6%、市町村が把握できた精検結果は24人で、そのうちがんが1人、異形成が9人。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
一次検診	対象者数(人) A	133,250	130,796	139,232	139,232	139,232	135,485
	受診者数(人) B	24,150	24,450	24,207	26,943	28,453	28,247
	受診率(%) C = B/A	18.1	18.7	17.4	19.4	20.4	20.8
一次検診結果	異常認めず(人) D	24,054	24,361	24,125	26,743	28,098	28,051
	要精検者数(人) E	96	89	82	200	293	174
	判定不能(人) F	—	—	—	—	62	22
	要精検率(%) G = E/B 指標：許容値1.4%以下	0.40	0.36	0.34	0.74	1.03	0.62
精密検査	精検受診者数(人) H	80	78	74	179	192	140
	精検受診率(%) I = H/E 指標：目標値90%以上	83.3	87.6	90.2	89.5	65.5	80.5
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	16(36)	5(35)	11(32)	15(100)	20(105)	23(76)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標：許容値0.05%以上	0.07	0.02	0.05	0.06	0.07	0.08
	陽性反応適中度(%) L = J/H 指標：許容値4.0%以上	20.0	6.4	14.9	8.4	10.4	16.4
確定調査結果	確定がん数(人) M	15	4	11	14	18	21
	確定がん率(%) N = M/B	0.06	0.02	0.05	0.05	0.06	0.07

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成23年度子宮頸部がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 (再掲)	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3,892	513	13.2	111	10	0	503	1.95
25～29歳	3,649	1,158	31.7	417	15	1	1,142	1.30
30～34歳	4,726	2,005	42.4	958	28	4	1,973	1.40
35～39歳	4,970	2,529	50.9	1,533	30	4	2,495	1.19
40～44歳	4,048	2,613	64.6	1,622	22	2	2,589	0.84
45～49歳	3,853	2,189	56.8	1,640	17	2	2,170	0.78
50～54歳	4,974	2,470	49.7	1,925	12	0	2,458	0.49
55～59歳	8,189	2,687	32.8	2,166	12	0	2,675	0.45
60～64歳	13,797	4,192	30.4	3,476	10	1	4,181	0.24
65～69歳	14,574	3,052	20.9	2,702	5	2	3,045	0.16
70～74歳	16,049	2,696	16.8	2,368	9	3	2,684	0.33
75～79歳	17,672	1,527	8.6	1,391	2	3	1,522	0.13
80歳以上	35,092	616	1.8	533	2	0	614	0.32
計	135,485	28,247	20.8	20,842	174	22	28,051	0.62

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果							子宮頸部がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/f	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l			浸潤がん m
20~24歳	7	70.0	2	1	3	3	0	1	1	0	0.195	14.3
25~29歳	12	80.0	5	2	5	4	1	0	0	0	0.000	0.0
30~34歳	21	75.0	1	0	17	9	8(5)	3	2	1	0.150	14.3
35~39歳	24	80.0	3	3	14	6	8(3)	4	4	0	0.158	16.7
40~44歳	19	86.4	4	1	10	7	3(1)	4	3	1	0.153	21.1
45~49歳	17	100.0	5	0	11	4	7(4)	1	1	0	0.046	5.9
50~54歳	9	75.0	1	1	4	2	2	3	3	0	0.121	33.3
55~59歳	9	75.0	3	1	5	3	2(2)	0	0	0	0.000	0.0
60~64歳	8	80.0	1	1	3	1	2	3	1	2	0.072	37.5
65~69歳	3	60.0	1	0	1	0	1	1	1	0	0.033	33.3
70~74歳	8	88.9	2	1	3	3	0	2	1	1	0.074	25.0
75~79歳	1	50.0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	2	100.0	1	0	0	0	0	1	1	0	0.162	50.0
計	140	80.5	29	12	76	42	34(15)	23	18	5	0.081	16.4

※ () 内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

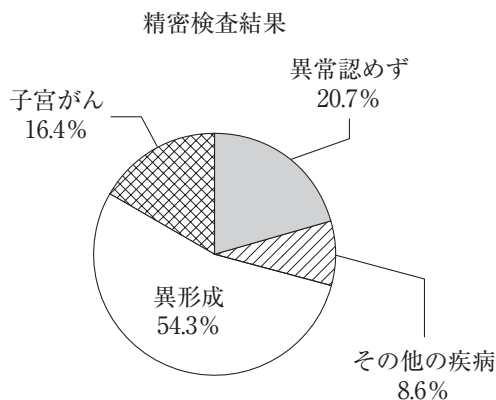
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果			要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	10,172	48	0	10,124	0.47
病 院	6,524	27	9	6,488	0.41
診 療 所	11,551	99	13	11,439	0.86
計	28,247	174	22	28,051	0.62

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	精 密 検 査 結 果							子宮頸部がん発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応適中度 (%) m' = i'/d'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	41	85.4	10	4	24	15	9(6)	3	2	1	0.029	7.3
病 院	18	66.7	2	2	8	3	5(1)	6	5	1	0.092	33.3
診 療 所	81	81.8	17	6	44	24	20(8)	14	11	3	0.121	17.3
計	140	80.5	29	12	76	42	34(15)	23	18	5	0.081	16.4

※ () 内は中等度異形成



4) 平成23年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数						精密検査結果別人員						
	対象者数 (人)	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率 (%)	異常 認めず	その他 の疾病	異形成	がん	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率 (%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J
鳥取市	42,481	2,418	5,539	7,957	18.7	20	33	53	0.67	49	92.5	8	3	29	41	0.113	18.4
米子市	32,100	0	7,040	7,040	21.9	0	48	48	0.68	40	83.3	8	3	19	32	0.142	25.0
倉吉市	12,310	787	1,137	1,924	15.6	6	11	17	0.88	12	70.6	2	3	7	10	0.000	0.0
境港市	8,044	0	1,087	1,087	13.5	0	4	4	0.37	4	100.0	0	0	3	4	0.092	25.0
岩美町	3,252	626	101	727	22.4	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
八頭町	4,327	1,085	196	1,281	29.6	4	4	8	0.62	4	50.0	1	0	3	3	0.000	0.0
若桜町	1,139	326	45	371	32.6	1	0	1	0.27	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	2,064	184	266	450	21.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
湯梨浜町	3,978	537	394	931	23.4	1	2	3	0.32	2	66.7	0	1	1	2	0.000	0.0
三朝町	1,788	340	81	421	23.5	3	0	3	0.71	3	100.0	1	0	2	2	0.000	0.0
北栄町	3,773	868	158	1,026	27.2	2	2	4	0.39	3	75.0	1	0	2	2	0.000	0.0
琴浦町	4,788	1,148	183	1,331	27.8	6	1	7	0.53	5	71.4	2	0	1	3	0.150	40.0
南部町	2,816	368	391	759	27.0	2	3	5	0.66	5	100.0	2	0	3	3	0.000	0.0
伯耆町	3,005	561	313	874	29.1	0	1	1	0.11	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
日吉津村	747	46	255	301	40.3	0	4	4	1.33	4	100.0	1	0	2	3	0.332	25.0
大山町	4,882	316	506	822	16.8	0	9	9	1.09	5	55.6	1	2	2	4	0.000	0.0
日南町	1,837	309	10	319	17.4	1	0	1	0.31	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	1,148	253	0	253	22.0	2	0	2	0.79	2	100.0	1	0	1	1	0.000	0.0
江府町	1,006	0	373	373	37.1	0	4	4	1.07	2	50.0	1	0	1	1	0.000	0.0
合計	135,485	10,172	18,075	28,247	20.8	48	126	174	0.62	140	80.5	29	12	76	111	0.081	16.4
東部	53,263	4,639	6,147	10,786	20.3	25	37	62	0.57	53	85.5	9	3	32	44	0.083	17.0
中部	26,637	3,680	1,953	5,633	21.1	18	16	34	0.60	25	73.5	6	4	13	19	0.036	8.0
西部	55,585	1,853	9,975	11,828	21.3	5	73	78	0.66	62	79.5	14	5	31	48	0.101	19.4

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		18 年 度			19 年 度			20 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	672		672	732		732	667		667
	受 診 者 数(人) B	577	20	597	641	24	665	593	49	642
	受 診 率(%) C = B / A	85.9		88.8	87.6		90.9	88.9		96.3
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	555			624			580		
	要 精 検 者 数(人) E	22			17			13		
	判 定 不 能(人) F	0			0			0		
要 精 検 率(%) G = E / B		3.81			2.65			2.19		
	精 検 受 診 者 数(人) H	17			17			12		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	77.3			100.0			92.3		
	子 宮 が ん の 者(人) J	1(1)	1(1)	2(2)	0(7)	0(3)	0(10)	5(1)	0(3)	5(4)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.17	5.00	0.34	0.00	0.00	0.00	0.84	0.00	0.78
陽性反応適中度(%) L = J / H		5.9			0.0			41.7		
	確 定 が ん 数(人) M			2			1			5
確 定 が ん 率(%) N = M / B			0.34				0.15			0.78

区 分		21 年 度			22 年 度			23 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	715		715	707		707	735		735
	受 診 者 数(人) B	608	71	679	608	63	671	626	76	702
	受 診 率(%) C = B / A	85.0		95.0	86.0		94.9	85.2		95.5
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	601			605			618		
	要 精 検 者 数(人) E	7			2			8		
	判 定 不 能(人) F	0			1			0		
要 精 検 率(%) G = E / B		1.15			0.33			1.28		
	精 検 受 診 者 数(人) H	4			1			7		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	57.1			50.0			87.5		
	子 宮 が ん の 者(人) J	3(0)	2(4)	5(4)	1(0)	1(0)	2(0)	4(2)	2(3)	6(5)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.49	2.82	0.74	0.16	1.59	0.30	0.64	2.63	0.85
陽性反応適中度(%) L = J / H		75.0			100.0			57.1		
	確 定 が ん 数(人) M			3	1	1	2	4	2	6
確 定 が ん 率(%) N = M / B			0.44				0.30			0.85

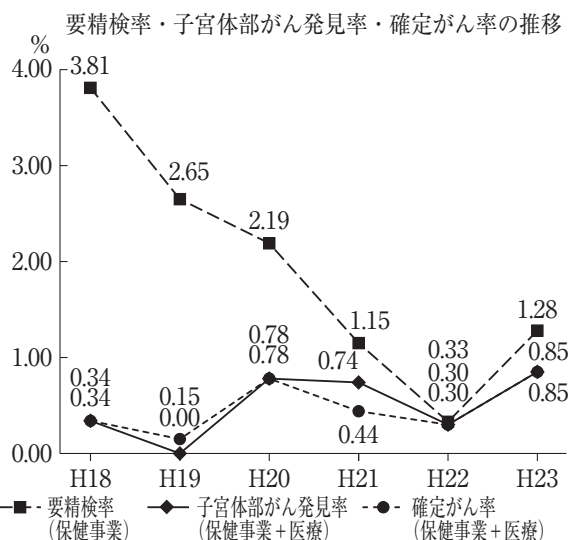
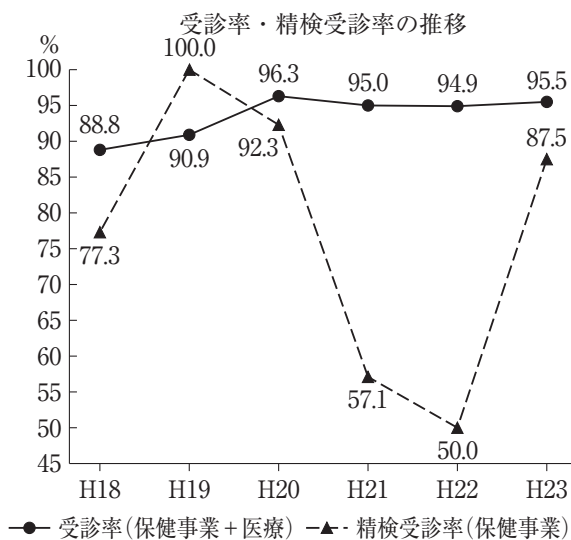
※1 「保健事業分」=集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」=集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者

※2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上

※3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

※4 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出

※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成23年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 対象者数(人) a	一次検診 受診者数 b	受診率(%) c = b / a	一次検診結果			要精検率(%) e = d / b
				要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	2	2	100.0	0	0	2	0.00
25～29歳	16	13	81.3	0	0	13	0.00
30～34歳	42	33	78.6	0	0	33	0.00
35～39歳	67	61	91.0	0	0	61	0.00
40～44歳	86	77	89.5	0	0	77	0.00
45～49歳	148	125	84.5	0	0	125	0.00
50～54歳	165	141	85.5	3	0	138	2.13
55～59歳	80	70	87.5	2	0	68	2.86
60～64歳	70	58	82.9	1	0	57	1.72
65～69歳	26	23	88.5	1	0	22	4.35
70～74歳	17	10	58.8	0	0	10	0.00
75～79歳	12	9	75.0	0	0	9	0.00
80歳以上	4	4	100.0	1	0	3	25.00
計	735	626	85.2	8	0	618	1.28

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人) f	精検受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				子宮体部 がん発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮体部 がん h		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
40～44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
45～49歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
50～54歳	3	100.0	1	0	2	0	0.000	0.0
55～59歳	1	50.0	0	0	0	1	1.429	100.0
60～64歳	1	100.0	0	0	0	1	1.724	100.0
65～69歳	1	100.0	0	0	0	1	4.348	100.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	1	100.0	0	0	0	1	25.000	100.0
計	7	87.5	1	0	2	4	0.639	57.1

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診できなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	受診者数(人) a'	精 密 検 査 結 果					子宮体部がん発見率 (%) c' = b' / a'
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん b'	判定不能	
20～24歳	0	0	0	0	0	0	0.000
25～29歳	2	2	0	0	0	0	0.000
30～34歳	9	8	1	0	0	0	0.000
35～39歳	6	6	0	0	0	0	0.000
40～44歳	2	2	0	0	0	0	0.000
45～49歳	15	14	1	0	0	0	0.000
50～54歳	18	16	1	1	0	0	0.000
55～59歳	9	8	1	0	0	0	0.000
60～64歳	7	6	0	1	0	0	0.000
65～69歳	1	0	1	0	0	0	0.000
70～74歳	6	4	0	1	1	0	16.667
75～79歳	1	0	0	0	1	0	100.000
80歳以上	0	0	0	0	0	0	0.000
計	76	66	5	3	2	0	2.632

4) 平成23年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 (人)	車検診	施設検診	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診	施設検診	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	子宮内膜 増殖症 N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
鳥取市	312	0	224	224	71.8		2	2	0.89	2	100.0	1	0	0	1	1	0.446	50.0
米子市	248	0	248	248	100.0		5	5	2.02	5	100.0	0	0	2	3	5	1.210	60.0
倉吉市	63	0	54	54	85.7		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
境港市	11	0	11	11	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
岩美町	3	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
八頭町	9	0	9	9	100.0		1	1	11.11	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
若桜町	6	4	2	6	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	0	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
湯梨浜町	20	0	14	14	70.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
三朝町	2	2	0	2	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	11	0	11	11	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
琴浦町	21	0	19	19	90.5		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
南部町	13	0	12	12	92.3		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
伯耆町	0	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日吉津村	2	0	2	2	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
大山町	8	0	8	8	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	0	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	0	0	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	6	6	0	6	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合計	735	12	614	626	85.2		8	8	1.28	7	87.5	1	0	2	4	6	0.639	57.1
東部	330	4	235	239	72.4		3	3	1.26	2	66.7	1	0	0	1	1	0.418	50.0
中部	117	2	98	100	85.5		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
西部	288	6	281	287	99.7		5	5	1.74	5	100.0	0	0	2	3	5	1.045	60.0

(5) 平成23年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度
異形成	20	24	85	52
頸癌0期	3	2	9	13
頸癌Ia期	0	0	3	0
頸癌Ib期以上	0	1	3	5
合計	23	27	100	70

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成22年度	平成23年度
内膜増殖症	0	5
体癌Ia、Ib期	1	6
体癌Ic期以上	1	1
合計	2	12

※子宮頸部がん検診から見つかる

表3 発見子宮がん症例（Ib期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	1	0	1
2年間隔	0	1	1
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	0	4	4

表4 治療機関

	頸癌0期	頸癌Ia期	頸癌Ib期以上	計
鳥取大学医学附属病院	4	0	4	8
鳥取県立中央病院	7	0	2	9
鳥取市立病院	0	0	0	0
鳥取赤十字病院	0	0	0	0
鳥取県立厚生病院	0	0	0	0
博愛病院	2	0	0	2
ミオファティリティクリニック	1	0	0	1
県外医療機関	1	0	0	1
計	15	0	6	21

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成23年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）190,556人のうち、受診者数48,513人、受診率25.5%で前年度より3,031人、1.3ポイント増加した。

このうち要精検者は2,467人、要精検率5.09%で、平成22年度より463人、0.68ポイント増加した。精密検査受診者は2,208人、精検受診率89.5%で、前年度より441人、1.3ポイント増加した。肺がん検診の受診率増加は米子市での医療機関検診開始による3,289人増が大きく影響している。要精検率は国の指標である3.0%以下を大きく上回っている。精検受診率は引き続き高く、その結果、肺がん44人、がん疑い70人の計114人が発見された。肺がん発見率は0.09%で、国の指標の許容値0.03%の3倍と高率であった。また、陽性反応適中度は2.0%となり、これも国の指標の許容値1.3%を大きく上回っており、鳥取県の肺がん検診は高い要精検率のもとで、効率よく多くの肺がんが発見されていることになる。

しかしながら、医療機関検診と集団（車）検診を比較すると、要精検率は医療機関検診6.29%、集団検診4.28%と集団検診の方が2.01ポイント低いものに対して、がん発見率では医療機関検診0.098%、集団検診0.086%と医療機関検診が0.12ポイント上回るのみである。医療機関検診では従来から比較読影の割合が低いこいと指摘されており、医療機関検診の精度管理は今後の検討課題の一つである。平成23年度で特筆すべきは西部地区の医療機関検診でがん発見率が0.207%と極めて高率であったことで、これは米子市で新たに医療機関検診を開始したことが功を奏していると考えられる。

追跡調査の結果、確定肺がんは61人（原発性55人、転移性6人）で、確定がん率は0.13%となり、前年度よりも0.02ポイント減少した。フォローをしてもがん疑いのまま確定がんに至らないケースも依然として多数あった。肺がん疑いの症例を定期的にフォローすることは今後も重要な課題である。

X線受診者総数48,513人のうち経年受診者は29,449人、経年受診率60.7%で例年に比べ約10ポイント減少した。これは、米子市が医療機関検診を導入し、米子市受診者のうち経年受診者は約10%で、ほとんどが初回受診者だったことが大きいと考えられる。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は6,622人（13.6%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,750人で、X線検査受診者の5.7%であった。そのうち要精検者はなかった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.068%で、非経年受診者のがん発見率0.126%で、非経年者の方が1.85倍高かった。また、高危険群所属者6,622人のうちがんが10人発見され、がん発見率0.151%、非高危険群所属者41,891人のうちがんが34人発見され、がん発見率0.081%で、高危険群所属者の方が1.86倍高かった。

平成22年度全国集計によると、受診率17.2%、要精検率2.93%、精検受診率77.7%、がん発見率0.06%、陽性反応適中度2.8%であった。

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成23年までの24年間における発見肺がんは1,039人（発見率10万対73人）であった。発見方法は胸部X線941人（90.6%）、喀痰細胞診53人、両者43人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減している。平均年齢は71.9歳、男性619人、女性420人で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はI期が584人（56.2%）で過半数を占め、

636人（61.2%）に手術が行われた。予後調査では全例（1,039人）の累積生存率は5生率46.5%、10生率30.0%であり、手術例では5生率65.4%、10生率44.5%であった。臨床病期 I A期の5生率は73.5%、10生率は53.2%と良好な結果を示した。

2) 平成23年度調査結果

(1) 予後調査では原発性肺がん55例、転移性肺腫瘍6例、合計61例の確定肺癌。

最終報告で70例あった肺がん疑いは、その後の予後調査により肺がんが17例発見され、16例が肺がんを否定され、肺がん疑いのままが37例という結果となった。この37例は今後3年間フォローを続ける予定である。

(3) 発見された原発性肺がんの55例すべて（100%）が胸部X線のみで発見され、喀痰細胞診による発見はなかった。

(4) 原発性肺がんの平均年齢は70.8歳、女性肺がんは24例（43.6%）、臨床病期はI期33例（60%）、腺癌は40例（72.7%）と引き続き高率であった。

(5) 手術症例の割合は34例（61.8%）と多く、術後病期I期の肺がんが29例（85.3%）、腺癌が29例（85.3%）と多数を占めた。

(6) 腫瘍径は平均33.2mmと大きく、50mm以上が11例（20.0%）あり、最大90mmの腫瘍も発見されている。20mm以下は17例（30.9%）と少なかった。

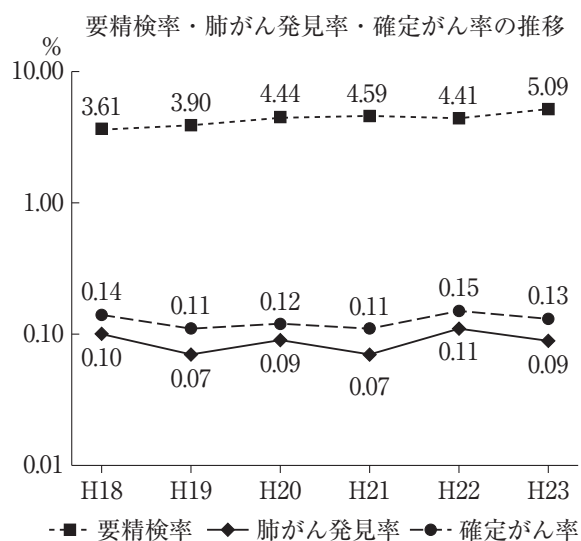
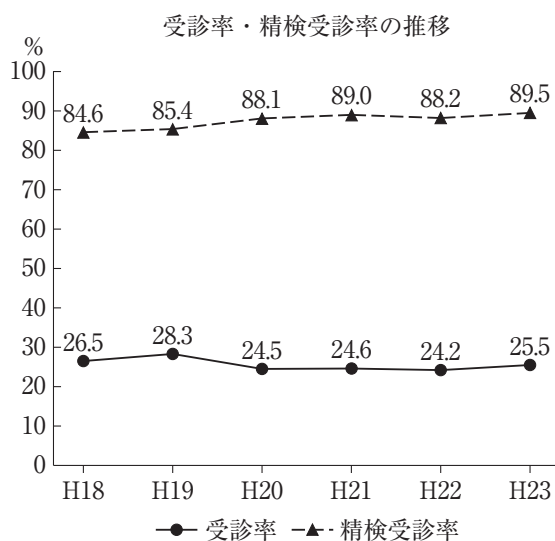
(7) 転移性肺腫瘍は6例で、原発巣は乳癌2例、胃癌1例、大腸癌1例、前立腺癌1例、胆管癌1例であった。

(8) 施設検診と車検診との比較を行い、要精検率は施設検診6.3%、車検診4.3%と施設が高く、特に中部地区が13.5%と高い傾向が見られた。原発性肺がん55例のうち、車検診で32例（発見率0.110%）、施設検診23例（0.118%）であった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
一次検診	対象者数(人) A	186,314	175,897	188,186	188,186	188,186	190,556
	受診者数(人) B	49,296	49,806	46,015	46,247	45,482	48,513
	受診率(%) C = B/A	26.5	28.3	24.5	24.6	24.2	25.5
一次検診結果	異常認めず(人) D	47,516	47,866	43,974	44,125	43,478	46,046
	要精検者数(人) E	1,780	1,940	2,041	2,122	2,004	2,467
	要精検率(%) F = E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	3.61	3.90	4.44	4.59	4.41	5.09
精密検査	精検受診者数(人) G	1,505	1,656	1,799	1,888	1,767	2,208
	精検受診率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	84.6	85.4	88.1	89.0	88.2	89.5
精密検査結果	肺がんの者(人) I	47(75)	35(88)	41(94)	31(87)	50(67)	44(70)
	肺がん発見率(%) J = I/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.10	0.07	0.09	0.07	0.11	0.09
	陽性反応適中度(%) K = I/G <small>指標：許容値1.3%以上</small>	3.1	2.1	2.3	1.6	2.8	2.0
確定調査結果	確定がん数(人) L	68	55	55	49	69	61
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	62	48	52	41	65	55
	確定がん率(%) N = L/B	0.14	0.11	0.12	0.11	0.15	0.13

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者を計上。(なお、19年度まではD判定から肺がん・肺がん疑いとなった者も追加して計上)



(2) 平成23年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X検査結果

年 齢	対象者数 (人) a		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査									エックス線フィルム読影結果						
			一次検診 受診者数 b		受 診 率 (%) c = b/a			経年受診 者数再掲 d		経年受診 者 割 合 (%) e = d/b		要精検者数 f		異常認めず		要精検率 (%) g = f/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	441	864	20.4	21.3	21.0	144	265	32.7	30.7	15	15	426	849	3.40	1.74	2.30
45～49歳	2,326	3,853	399	838	17.2	21.7	20.0	196	415	49.1	49.5	20	18	379	820	5.01	2.15	3.07
50～54歳	3,058	4,974	551	1,203	18.0	24.2	21.8	285	630	51.7	52.4	30	30	521	1,173	5.44	2.49	3.42
55～59歳	4,908	8,189	987	2,172	20.1	26.5	24.1	501	1,237	50.8	57.0	56	84	931	2,088	5.67	3.87	4.43
60～64歳	9,854	13,797	2,923	5,169	29.7	37.5	34.2	1,536	2,997	52.5	58.0	181	192	2,742	4,977	6.19	3.71	4.61
65～69歳	11,061	14,574	3,428	5,021	31.0	34.5	33.0	1,983	3,171	57.8	63.2	221	213	3,207	4,808	6.45	4.24	5.14
70～74歳	11,588	16,049	3,762	5,600	32.5	34.9	33.9	2,357	3,583	62.7	64.0	226	254	3,536	5,346	6.01	4.54	5.13
75～79歳	11,797	17,672	3,238	4,769	27.4	27.0	27.2	2,062	3,201	63.7	67.1	197	257	3,041	4,512	6.08	5.39	5.67
80歳以上	15,558	35,092	2,889	4,259	18.6	12.1	14.1	1,983	2,903	68.6	68.2	212	246	2,677	4,013	7.34	5.78	6.41
計	72,308	118,248	18,618	29,895	25.7	25.3	25.5	11,047	18,402	59.3	61.6	1,158	1,309	17,460	28,586	6.22	4.38	5.09
合計	190,556		48,513		25.5			29,449		60.7		2,467		46,046		5.09		

※1 経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

※2 高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

②6ヵ月以内に血痰のあった者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中 高危険群所属者		喀痰細胞診受診者数 (人) h		喀 痰 細 胞 診 結 果				要精検率 (%) j = i/h	
					要精検者数 i		精 検 不 要			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	20	6	26	6	0	0	26	6	0.00	0.00
45～49歳	16	3	28	5	0	0	28	5	0.00	0.00
50～54歳	181	27	76	11	0	0	76	11	0.00	0.00
55～59歳	371	34	160	15	0	0	160	15	0.00	0.00
60～64歳	1,233	70	505	37	0	0	505	37	0.00	0.00
65～69歳	1,351	138	540	60	0	0	540	60	0.00	0.00
70～74歳	1,251	71	537	54	0	0	537	54	0.00	0.00
75～79歳	942	30	368	21	0	0	368	21	0.00	0.00
80歳以上	861	17	288	13	0	0	288	13	0.00	0.00
計	6,226	396	2,528	222	0	0	2,528	222	0.00	0.00
合 計	6,622		2,750		0		2,750		0.00	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (人)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	l		n		o = n / l			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		q = p / b			r = p / n		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	15	15	15	14	100.0	93.3	96.7	12	9	3	4	0	0	0	1	0.000	0.116	0.077	0.0	7.1	3.4
45～49歳	20	18	15	16	75.0	88.9	81.6	12	8	2	6	1	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	30	30	21	29	70.0	96.7	83.3	15	17	6	11	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	56	84	48	78	85.7	92.9	90.0	23	47	24	30	0	1	1	0	0.101	0.000	0.032	2.1	0.0	0.8
60～64歳	181	192	141	177	77.9	92.2	85.3	72	85	65	77	3	11	1	4	0.034	0.077	0.062	0.7	2.3	1.6
65～69歳	221	213	202	199	91.4	93.4	92.4	94	94	94	97	7	4	7	4	0.204	0.080	0.130	3.5	2.0	2.7
70～74歳	226	254	201	241	88.9	94.9	92.1	91	107	99	124	6	4	5	6	0.133	0.107	0.117	2.5	2.5	2.5
75～79歳	197	257	174	235	88.3	91.4	90.1	67	103	94	122	7	7	6	3	0.185	0.063	0.112	3.4	1.3	2.2
80歳以上	212	246	185	217	87.3	88.2	87.8	67	85	105	123	8	8	5	1	0.173	0.023	0.084	2.7	0.5	1.5
計	1,158	1,309	1,002	1,206	86.5	92.1	89.5	453	555	492	594	32	38	25	19	0.134	0.064	0.091	2.5	1.6	2.0
合計	2,467		2,208		89.5			1,008		1,086		70		44		0.091			2.0		
X線のみ要精検	2,467		2,208		89.5			1,008		1,086		70		44		/			2.0		
喀痰のみ要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		
X線+喀痰要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		

3) 検診機関別

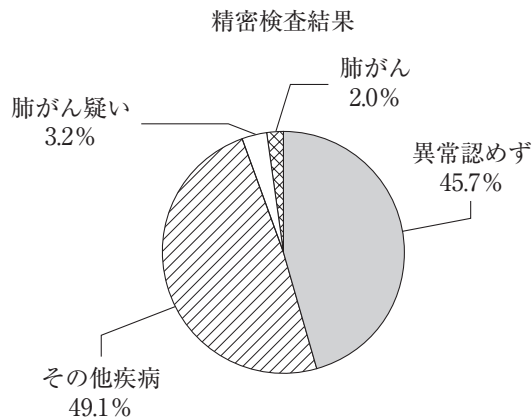
a. 一次検診結果 (X線検査)

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診 者中高危険群 所 属 者 数	
	受診者数(人) a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率(%) c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	10,437	17,901	6,686	11,451	521	676	9,916	17,225	4.99	3.78	4.22	3,502	142
中国労働衛生協会	291	463	223	368	18	30	273	433	6.19	6.48	6.37	32	0
病 院	2,518	3,723	1,565	2,436	216	218	2,302	3,505	8.58	5.86	6.95	788	118
診 療 所	5,372	7,808	2,573	4,147	403	385	4,969	7,423	7.50	4.93	5.98	1,904	136
計	18,618	29,895	11,047	18,402	1,158	1,309	17,460	28,586	6.22	4.38	5.09	6,226	396
合 計	48,513		29,449		2,467		46,046		5.09			6,622	

一次検診機関	喀痰容器提出者数(人) d'		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診ともに要精検者数 g'		一次検診結果				
			要精検者数 e'		精検不要		要精検率(%) f' = e'/d'				要精検者数 h' = (b' + e') - g'		要精検率(%) i' = h'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
保健事業団	1,165	143	0	0	1,165	143	0.00	0.00	0	0	521	676	4.99	3.78	4.22
中国労働衛生協会	32	0	0	0	32	0	0.00	0.00	0	0	18	30	6.19	6.48	6.37
病院	423	31	0	0	423	31	0.00	0.00	0	0	216	218	8.58	5.86	6.95
診療所	908	48	0	0	908	48	0.00	0.00	0	0	403	385	7.50	4.93	5.98
計	2,528	222	0	0	2,528	222	0.00	0.00	0	0	1,158	1,309	6.22	4.38	5.09
合計	2,750		0		2,750		0.00		0		2,467		5.09		

b. 精密検査結果

一次検診機関	要精検者数(人) h'		精密検査受診者数 j'		精密検査受診率(%) k' = j'/h'			精密検査結果								肺がん発見率(%) m' = l'/a'			陽性反応適中度(%) n' = l'/j'		
								異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん l'							
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	521	676	436	612	83.7	90.5	87.6	200	298	201	277	24	23	11	14	0.105	0.078	0.088	2.5	2.3	2.4
中国労働衛生協会	18	30	16	26	88.9	86.7	87.5	6	12	7	12	3	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病院	216	218	186	206	86.1	94.5	90.3	84	92	98	111	2	2	2	1	0.079	0.027	0.048	1.1	0.5	0.8
診療所	403	385	364	362	90.3	94.0	92.1	163	153	186	194	3	11	12	4	0.223	0.051	0.121	3.3	1.1	2.2
計	1,158	1,309	1,002	1,206	86.5	92.1	89.5	453	555	492	594	32	38	25	19	0.134	0.064	0.091	2.5	1.6	2.0
合計	2,467		2,208		89.5			1,008		1,086		70		44		0.091			2.0		



4) 平成23年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員										
	対象者数	車検	施設検診	計	受診率 (%)	車検	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	常その他の病	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J		
鳥取市	57,433	3,109	12,989	16,098	28.0	84	621	705	4.38	638	90.5	256	357	16	9	382	0.056	1.4	
米子市	42,442	4,816	3,827	8,643	20.4	198	307	505	5.84	473	93.7	222	231	8	12	251	0.139	2.5	
倉吉市	17,700	1,691	973	2,664	15.1	86	146	232	8.71	214	92.2	120	85	7	2	94	0.075	0.9	
境港市	11,307	1,016	0	1,016	9.0	47	0	47	4.63	44	93.6	14	28	2	0	30	0.000	0.0	
岩美町	4,844	967	0	967	20.0	24	0	24	2.48	22	91.7	21	0	1	0	1	0.000	0.0	
八頭町	6,534	2,625	238	2,863	43.8	64	14	78	2.72	66	84.6	26	31	3	6	40	0.210	9.1	
若桜町	1,776	493	176	669	37.7	15	8	23	3.44	18	78.3	8	10	0	0	10	0.000	0.0	
智頭町	3,263	523	234	757	23.2	16	13	29	3.83	23	79.3	12	9	0	2	11	0.264	8.7	
湯梨浜町	5,964	1,434	571	2,005	33.6	93	72	165	8.23	154	93.3	76	71	4	3	78	0.150	1.9	
三朝町	2,767	1,119	68	1,187	42.9	66	15	81	6.82	61	75.3	24	32	5	0	37	0.000	0.0	
北栄町	5,729	1,982	212	2,194	38.3	98	16	114	5.20	99	86.8	40	53	4	2	59	0.091	2.0	
琴浦町	7,221	2,641	91	2,732	37.8	115	10	125	4.58	105	84.0	57	37	10	1	48	0.037	1.0	
南部町	4,221	1,156	0	1,156	27.4	73	0	73	6.31	67	91.8	31	33	2	1	36	0.087	1.5	
伯耆町	4,533	1,546	42	1,588	35.0	55	0	55	3.46	44	80.0	28	14	1	1	16	0.063	2.3	
日吉津村	995	254	0	254	25.5	21	0	21	8.27	19	90.5	5	12	1	1	14	0.394	5.3	
大山町	7,503	1,988	0	1,988	26.5	87	0	87	4.38	76	87.4	28	47	0	1	48	0.050	1.3	
日南町	2,966	606	0	606	20.4	30	0	30	4.95	22	73.3	13	9	0	0	9	0.000	0.0	
日野町	1,783	372	0	372	20.9	25	0	25	6.72	21	84.0	9	8	1	3	12	0.806	14.3	
江府町	1,575	754	0	754	47.9	48	0	48	6.37	42	87.5	18	19	5	0	24	0.000	0.0	
合計	190,556	29,092	19,421	48,513	25.5	1,245	1,222	2,467	5.09	2,208	89.5	1,008	1,086	70	44	1,200	0.091	2.0	
東部	73,850	7,717	13,637	21,354	28.9	203	656	859	4.02	767	89.3	323	407	20	17	444	0.080	2.2	
中部	39,381	8,867	1,915	10,782	27.4	458	259	717	6.65	633	88.3	317	278	30	8	316	0.074	1.3	
西部	77,325	12,508	3,869	16,377	21.2	584	307	891	5.44	808	90.7	368	401	20	19	440	0.116	2.4	

(3) 平成23年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,039、転移性124） 1,163例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,175例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
原発性肺癌	38	53	40	41	42	30	48	65	50
転移性肺腫瘍	4	2	7	7	6	7	6	3	2
合 計	42	55	47	48	48	37	54	68	52

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	合計
原発性肺癌	57	62	48	52	41	65	55	1,039
転移性肺腫瘍	5	6	7	3	8	4	6	124
合 計	62	68	55	55	49	69	61	1,163

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H23年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 941例(90.6%)	Dのみ	0例	} 55例(100%)	(E1:39例、E2:16例)
	Eのみ	696例		Eのみ	55例		
細 胞 診	Dのみ	19例	} 53例(5.1%)	Dのみ	0例	} 0例(0.0%)	
	Eのみ	34例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 43例(4.1%)	D + D	0例	} 0例(0.0%)	
	D + E	8例		D + E	0例		
	E + D	6例		E + D	0例		
	E + E	19例		E + E	0例		
	不明	2例		2例(0.2%)	不明		
計 1,039例				計 55例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
計	1,426,250	19,592(1.37%)	16,759(85.5%)	1,039	73

4) 原発性肺癌 (1,039例)

(1) 年齢・性別

[H23年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	69例	6.6
60～69歳	316	30.4
70～79歳	476	45.8
80～	178	17.1
計	1,039	100.0

平均年齢 = 71.9
男 : 女 = 619例 : 420例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	2例	3.6
60～69歳	24	43.6
70～79歳	20	36.4
80～	9	16.4
計	55	100.0

平均年齢 = 70.8
男 : 女 = 31例 : 24例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H23年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	416(40.0)
I B	168
II A	34
II B	62
III A	138
III B	70
IV	122
不明	27
計	1,039

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	23(41.8)
I B	10
II A	1
II B	2
III A	3
III B	4
IV	12
不明	0
計	55

} 33
(60.0%)

b. 組織型

〔H23年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	251例
腺癌	619(59.5)
大細胞癌	15
小細胞癌	60
腺扁平上皮癌	10
腺様嚢胞癌	1
不明	85
計	1,041*

組織型	(%)
扁平上皮癌	6例
腺癌	40(72.7)
大細胞癌	0
小細胞癌	4
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	4
計	55

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

〔H23年度集計〕

(636例、手術率：61.2%)

原発性肺癌の手術症例

a. 臨床病期、術後病期

(34例、手術率：61.8%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
0 ccult	2例	0 ccult	2例
I A	358(56.3)	I A	313(49.2)
I B	132	I B	147
II A	20	II A	24
II B	36	II B	41
III A	67	III A	69
III B	14	III B	23
IV	7	IV	17
計	636	計	636

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
0 ccult	0例	0 ccult	0例
I A	21(61.8)	I A	19(55.9)
I B	8	I B	10
II A	1	II A	1
II B	2	II B	1
III A	0	III A	1
III B	1	III B	0
IV	1	IV	2
計	34	計	34

} 29
(85.3%)

b. 組織型分類

〔23年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	138例
腺癌	455(71.5)
大細胞癌	12
小細胞癌	7
腺扁平上皮癌	11
腺様嚢胞癌	1
不明	12
計	636

組織型	(%)
扁平上皮癌	3例
腺癌	29(85.3)
大細胞癌	0
小細胞癌	1
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	0
計	34

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4
11～20	9 (22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.0)	11	26(41.9)	14(29.2)
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.1)	15	18
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm

腫瘍径 (mm)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	H23年度 (%)
0～10	3	2	2	1
11～20	21(40.4)	10	13	16(29.1)
21～30	6	13(31.7)	26(40)	16(29.1)
31～40	14	8	15	6
41～50	5	6	6	4
51～	1	2	2	11
不明	2	0	1	1
計	52	41	65	55
平均	26.1mm	25.9mm	29.4mm	33.2mm
	最高71mm	68mm	80mm	90mm

5) 転移性肺腫瘍 (124例)

大腸癌：30例 甲状腺癌：10例 腎臓癌：11例 乳癌：13例 前立腺癌：12例
 肝臓癌：7例 胃癌：5例 尿管癌：4例 胆管癌：4例 胆のう癌：3例
 子宮癌：3例 卵巣癌：2例 肺癌：2例 食道癌：2例 膵臓癌：2例
 顎下腺：1例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 膀胱癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 不明：7例

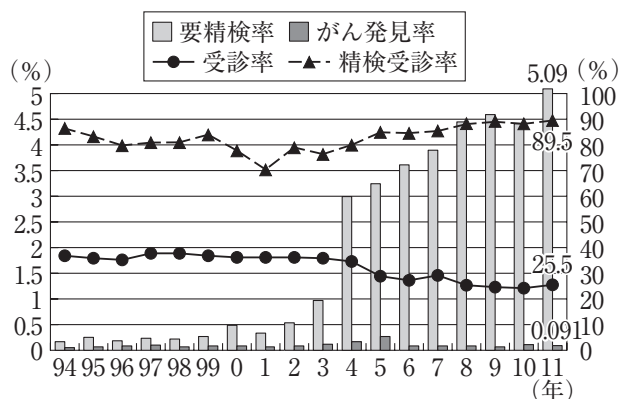
平成23年度集計 (6例)

乳癌：2例 胃癌：1例 大腸癌：1例 前立腺癌：1例 胆管癌：1例

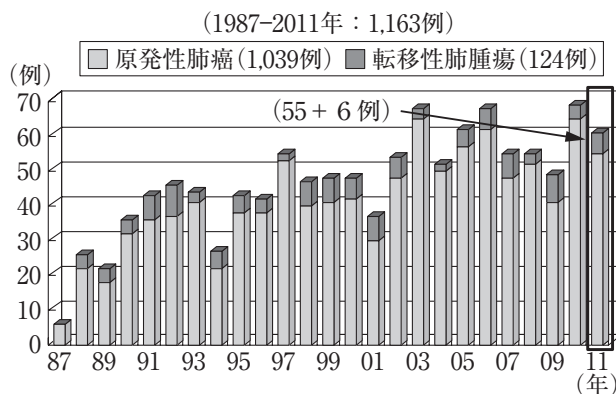
6) 平成23年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	19,421	29,092
要精検数	1,222(6.3%) 東部: 656(4.8%) 中部: 259(13.5%) 西部: 307(7.9%)	1,245(4.3%) 東部: 203(2.6%) 中部: 458(5.2%) 西部: 584(4.7%)
確定者数	23名(0.118%) (東部9、中部6、西部8)	32名(0.110%) (東部13、中部6、西部13)
発見方法	E1判定 16名 E2判定 7名	E1判定 23名 E2判定 9名
年齢	69.8歳	71.6歳
性差	男12名、女11名	男19名、女13名
臨床病期	I A 10名、I B 6名 II A 0名、II B 0名 III A 0名、III B 2名 IV 5名	I A 13名、I B 4名 II A 1名、II B 2名 III A 3名、III B 2名 IV 7名
組織型	扁平上皮3名、腺癌16名 大細胞癌0名、小細胞癌2名 不明2名	扁平上皮癌3名、腺癌24名 腺扁平上皮癌1名、大細胞癌0名 小細胞癌2名、不明2名
手術	あり15名、なし8名	あり19名、なし13名
腫瘍径	29.0mm	36.3mm

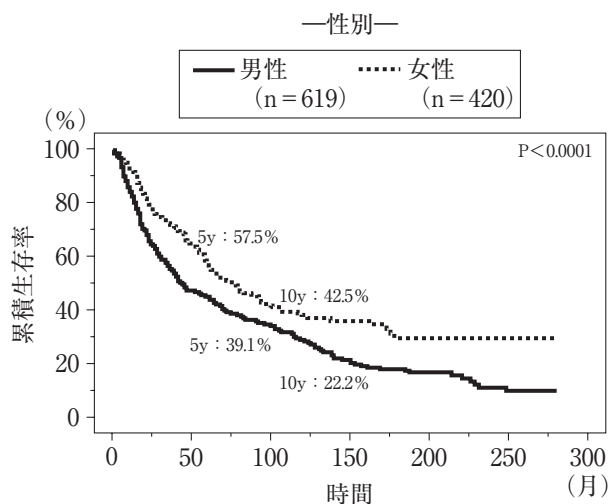
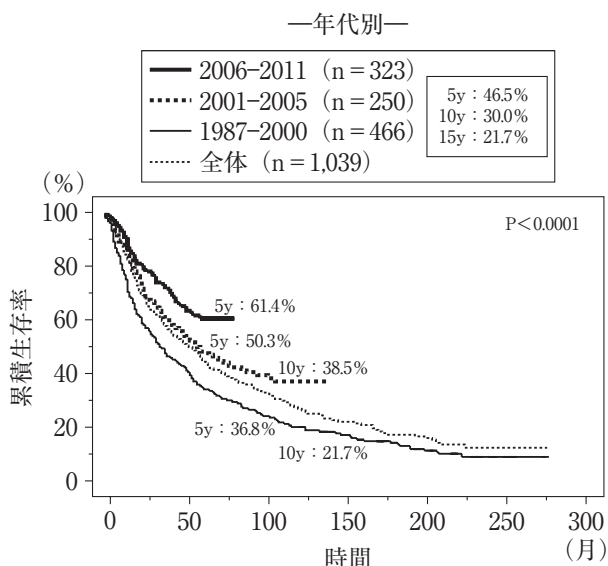
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



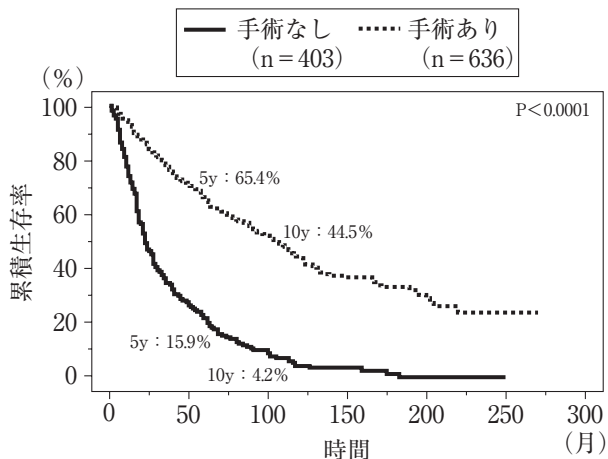
8) 検診で発見された肺癌の推移



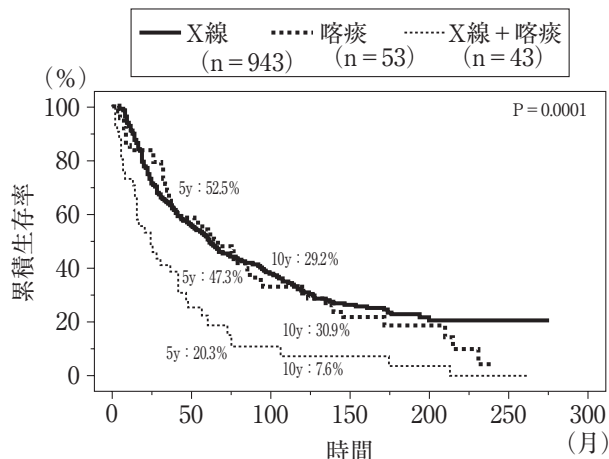
9) 検診発見肺癌の予後



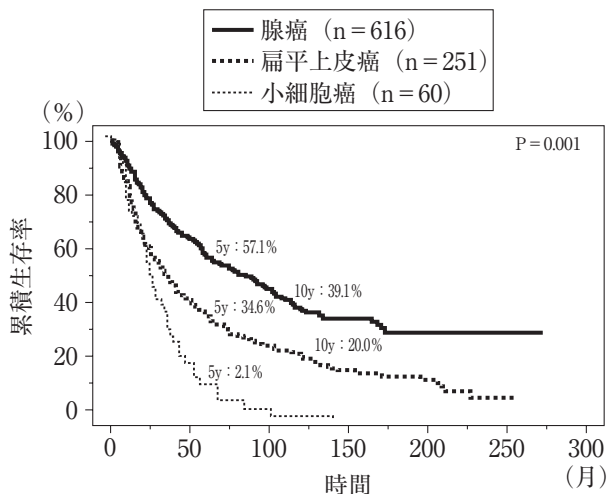
—手術の有無別—



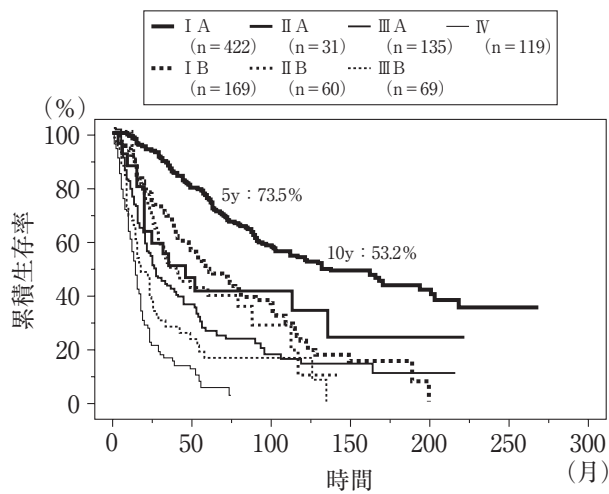
—発見方法別—



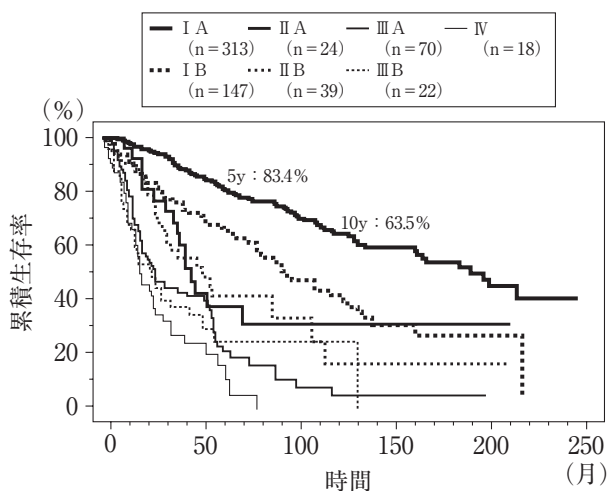
—組織型別—



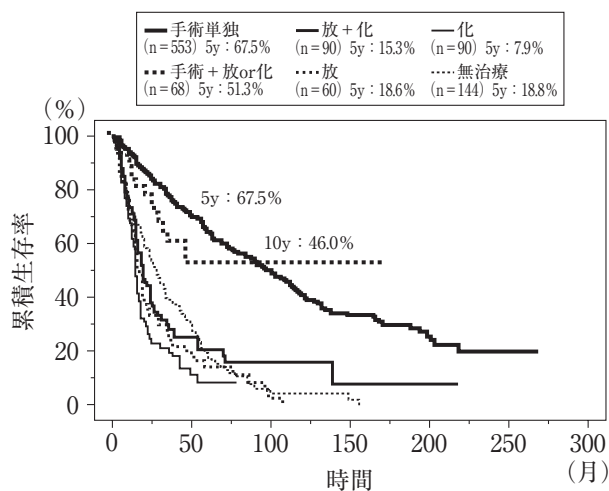
—臨床病期別—



—病理病期別—



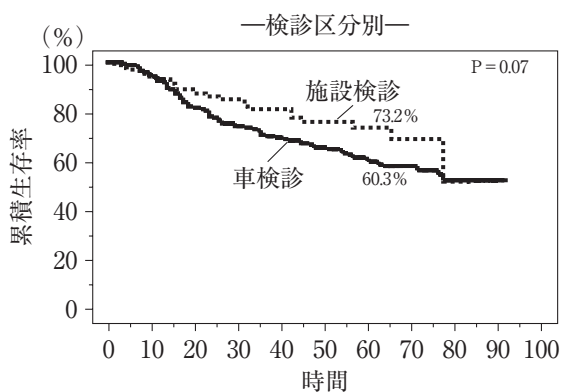
—治療法別—



10) 原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較 (平成16年度～平成23年度)

	車 検 診	施 設 検 診	P 値
症 例 数	287	143	
年 齢	73.2(52-92)歳	71.8(42-87)歳	0.038
性 差	男性；170；女性；117	男性；58；女性；85	0.0004
組 織 型	腺癌；202, 扁平上皮癌；42, 小細胞癌；14, その他；29	腺癌；105, 扁平上皮癌；12, 小細胞癌；8, その他；18	0.29
腫 瘍 径	29.3(5-85)mm	27.7(3-90)mm	0.43
臨床病期	IA；130, IB；45, IIA；8, IIB；11, IIIA；34, IIIB；25, IV；32, 不明；2	IA；74, IB；27, IIA；4, IIB；6, IIIA；11, IIIB；5, IV；15, 不明；1	0.45
手術有無	あり；188, なし；99	あり；104, なし；38, 不明；1	0.16

11) 検診発見肺がんの予後



4. 乳 が ん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成23年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として市町村が把握している人数）は118,248人で、受診者数は18,194人、受診率15.4%で前年度より0.5ポイント増加した。しかし、2年合わせた平成23年度の最終受診率は29.3%と0.8ポイント減少した。

要精検者数は1,362人、要精検率は7.49%で前年度より0.6ポイント減少した。精検受診者数は1,275人、精検受診率は93.6%と前年度より1.3ポイント増加した。この結果、乳がんが72人、発見率は0.40%となり、陽性反応適中度は5.65%であった。これは前年度に比して、それぞれ2人、0.01ポイント、0.37ポイント増加しており、国の指標より高い数値であり、精度管理が良好といえる。また、要精検率、発見率が高い40～44歳の受診率は53.1%、45～54歳では45%以上で多くの方が受診しており、よい傾向である。

要精検率を地区別でみると東部7.45%、中部8.24%、西部7.19%、がん発見率は、東部0.36%、中部0.38%、西部0.44%。陽性反応適中度はそれぞれ5.2%、4.9%、6.5%と、それぞれの数値に圏域での多少差がみられたが、問題となるような数値ではなかった。マンモグラフィ併用検診が始まった平成17年度から受診率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度をみると、横ばいあるいは微増となっており、よい傾向といえる。

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

平成23年度に発見された乳がんまたは乳がん疑い76例（視触診のみで発見されたがん1例も含める）について確定調査を行った結果、70例（両側1例）が確定乳がんで、非浸潤がんが10例あった。そのほかに良性・経過観察4例、調査中2例などであった。

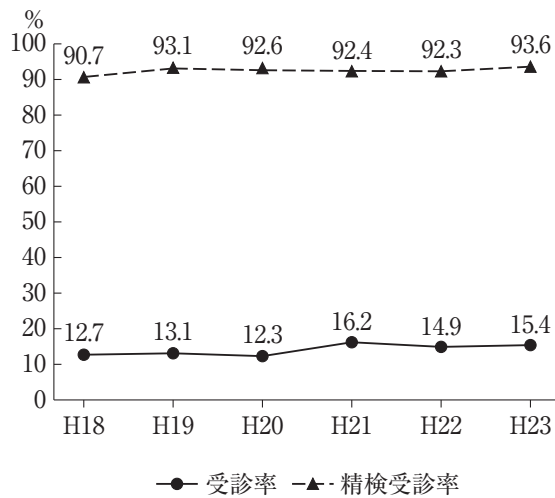
- (1) 平均年齢59.7歳。40歳代の増加が認められた。50歳以上はMMGでの発見率が高い。40歳代はMMGで所見なしだが、触診でがんが発見されたものが3例あった。
- (2) 繰り返し検診は早期癌が70%以上あり、比較読影が奏功しているものと思われる。
- (3) 術式は触知乳癌とMMG発見乳癌で差はなく、センチネルリンパ節生検が多くの施設で標準治療となってきた。
- (4) 40歳代は進行癌が多く、化学療法も多くが受けていた。乳腺が発達しているために乳腺と腫瘍の読影判断が困難なため、40歳代の検診方法は触診とマンモグラフィだけでは限界があると思われる。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

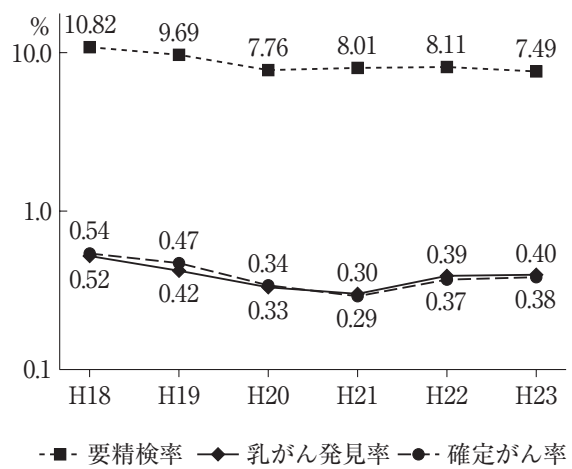
区 分			18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A		109,634	108,292	118,676	118,676	118,676	118,248
	受 診 者 数(人) B		13,956	14,134	14,624	19,278	17,726	18,194
	受 診 率(%) C = B/A		12.7	13.1	12.3	16.2	14.9	15.4
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D		12,446	12,765	13,489	17,734	16,288	16,832
	要 精 検 者 数(人) E		1,510	1,369	1,135	1,544	1,438	1,362
	要 精 検 率(%) F = E/B <small>指標：許容値11%以下</small>		10.82	9.69	7.76	8.01	8.11	7.49
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G		1,370	1,275	1,051	1,427	1,327	1,275
	精 検 受 診 率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>		90.7	93.1	92.6	92.4	92.3	93.6
精 密 検 査 結 果	乳 がん の 人(人) I		73(7)	59(8)	48(4)	57(1)	70(2)	72(3)
	乳 がん 発 見 率(%) J = I/B <small>指標：許容値0.23%以上</small>		0.52	0.42	0.33	0.30	0.39	0.40
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G <small>指標：許容値2.5%以上</small>		5.33	4.63	4.57	3.99	5.28	5.65
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L		75	67	49(52)	56	65	69(70)
	確 定 がん 率(%) M = L/B		0.54	0.47	0.34	0.29	0.37	0.38

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- * 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- * 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。
平成20年度報告より、視・マンモ併用検診で発見された数、()内の数値は視触診のみ検診で発見された数を含んだ数

受診率・精検受診率の推移



要精検率・乳がん発見率・確定がん率の推移



(2) 平成23年度乳がん検診（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数 (人)	一次検診 受診者数	受診率 (%)	一次検診結果		要精検率 (%)	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
				要精検者数	異常認めず		要精検者数	要精検率 (%)	要精検者数	要精検率 (%)	要精検者数	要精検率 (%)
	a	b	c = b/a	d		e = d/b	f	g = f/b	h	i = h/b	j	k = j/b
40～44歳	4,048	2,151	53.1	219	1,932	10.18	52	2.42	143	6.65	24	1.12
45～49歳	3,853	1,816	47.1	219	1,597	12.06	43	2.37	158	8.70	18	0.99
50～54歳	4,974	2,234	44.9	194	2,040	8.68	37	1.66	136	6.09	21	0.94
55～59歳	8,189	2,314	28.3	166	2,148	7.17	26	1.12	119	5.14	21	0.91
60～64歳	13,797	3,880	28.1	238	3,642	6.13	34	0.88	181	4.66	23	0.59
65～69歳	14,574	2,037	14.0	104	1,933	5.11	26	1.28	75	3.68	3	0.15
70～74歳	16,049	2,151	13.4	133	2,018	6.18	20	0.93	99	4.60	14	0.65
75～79歳	17,672	1,092	6.2	60	1,032	5.49	14	1.28	42	3.85	4	0.37
80歳以上	35,092	519	1.5	29	490	5.59	11	2.12	16	3.08	2	0.39
計	118,248	18,194	15.4	1,362	16,832	7.49	263	1.45	969	5.33	130	0.71

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 (人) l	精検受診率 (%) m = l / d	精 密 検 査 結 果				乳 がん 発見率(%) o = n / b	陽 性 反 応 適中度(%) p = n / l
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	206	94.1	86	112	1	7	0.325	3.4
45～49歳	201	91.8	98	90	0	13	0.716	6.5
50～54歳	176	90.7	82	91	0	3	0.134	1.7
55～59歳	151	91.0	79	64	0	8	0.346	5.3
60～64歳	226	95.0	126	79	1	20	0.515	8.8
65～69歳	101	97.1	57	40	0	4	0.196	4.0
70～74歳	129	97.0	77	35	1	16	0.744	12.4
75～79歳	56	93.3	35	20	0	1	0.092	1.8
80歳以上	29	100.0	17	12	0	0	0.000	0.0
計	1,275	93.6	657	543	3	72	0.396	5.6

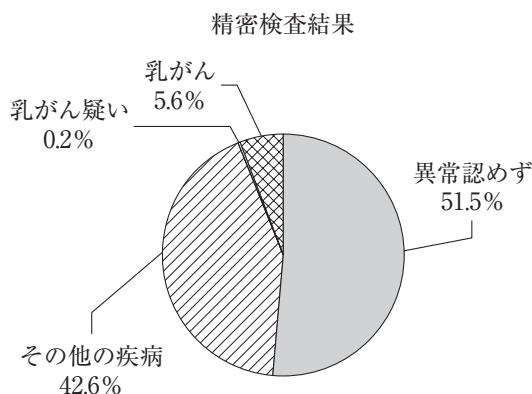
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 (人) a'	一次検診結果			視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず c' = b' / a'	要精検率 (%) c' = b' / a'	要精検者数 d'	要精検率 (%) e' = d' / a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g' = f' / a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i' = h' / a'
保健事業団	7,759	504	7,255	6.50	54	0.70	422	5.44	28	0.36
病 院	8,316	706	7,610	8.49	187	2.25	437	5.25	82	0.99
診 療 所	2,079	150	1,929	7.22	22	1.06	108	5.19	20	0.96
そ の 他	40	2	38	5.00	0	0.00	2	5.00	0	0.00
計	18,194	1,362	16,832	7.49	263	1.45	969	5.33	130	0.71

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 (人) j'	精検受診率 (%) k' = j' / b'	精 密 検 査 結 果				乳 がん 発見率(%) m' = l' / a'	陽 性 反 応 適中度(%) n' = l' / j'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	472	93.7	250	201	1	20	0.258	4.2
病 院	666	94.3	337	283	2	44	0.529	6.6
診 療 所	135	90.0	69	58	0	8	0.385	5.9
そ の 他	2	100.0	1	1	0	0	0.000	0.0
計	1,275	93.6	657	543	3	72	0.396	5.6



4) 平成23年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん O	有 見者	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J	
鳥取市	35,982	1,868	3,224	5,092	14.2	170	246	416	8.17	382	91.8	206	157	0	19	176	0.373	5.0
米子市	27,227	814	3,345	4,159	15.3	37	244	281	6.76	270	96.1	112	136	0	22	158	0.529	8.1
倉吉市	10,891	584	603	1,187	10.9	56	61	117	9.86	110	94.0	60	43	2	5	50	0.421	4.5
境港市	6,968	406	786	1,192	17.1	18	100	118	9.90	111	94.1	62	44	0	5	49	0.419	4.5
岩美町	2,913	72	512	584	20.0	3	11	14	2.40	13	92.9	7	4	0	2	6	0.342	15.4
八頭町	3,918	712	150	862	22.0	57	10	67	7.77	61	91.0	37	22	0	2	24	0.232	3.3
若桜町	1,071	196	31	227	21.2	10	7	17	7.49	16	94.1	10	6	0	0	6	0.000	0.0
智頭町	1,949	32	239	271	13.9	1	9	10	3.69	10	100.0	5	3	0	2	5	0.738	20.0
湯梨浜町	3,566	415	165	580	16.3	28	19	47	8.10	45	95.7	22	21	0	2	23	0.345	4.4
三朝町	1,666	236	0	236	14.2	26	0	26	11.02	23	88.5	12	10	0	1	11	0.424	4.3
北栄町	3,404	502	83	585	17.2	28	16	44	7.52	42	95.5	16	23	0	3	26	0.513	7.1
琴浦町	4,375	623	225	848	19.4	31	18	49	5.78	46	93.9	30	14	0	2	16	0.236	4.3
南部町	2,567	241	266	507	19.8	2	31	33	6.51	32	97.0	20	9	1	2	12	0.394	6.3
伯耆町	2,798	353	161	514	18.4	7	17	24	4.67	22	91.7	7	14	0	1	15	0.195	4.5
日吉津村	633	78	76	154	24.3	0	9	9	5.84	6	66.7	4	2	0	0	2	0.000	0.0
大山町	4,483	260	296	556	12.4	11	24	35	6.29	35	100.0	19	13	0	3	16	0.540	8.6
日南町	1,773	225	19	244	13.8	11	3	14	5.74	13	92.9	6	7	0	0	7	0.000	0.0
日野町	1,096	182	0	182	16.6	10	0	10	5.49	9	90.0	7	2	0	0	2	0.000	0.0
江府町	968	0	214	214	22.1	0	31	31	14.49	29	93.5	15	13	0	1	14	0.467	3.4
合計	118,248	7,799	10,395	18,194	15.4	506	856	1,362	7.49	1,275	93.6	657	543	3	72	618	0.396	5.6
東部	45,833	2,880	4,156	7,036	15.4	241	283	524	7.45	482	92.0	265	192	0	25	217	0.355	5.2
中部	23,902	2,360	1,076	3,436	14.4	169	114	283	8.24	266	94.0	140	111	2	13	126	0.378	4.9
西部	48,513	2,559	5,163	7,722	15.9	96	459	555	7.19	527	95.0	252	240	1	34	275	0.440	6.5

【参考】

平成23年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一 次 検 診 受診者数 (人) a	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) $c = b/a$
		要 精 検 者 数 b	異 常 認 め ず	
40 ～ 44 歳	0	0	0	0.00
45 ～ 49 歳	1	0	1	0.00
50 ～ 54 歳	3	0	3	0.00
55 ～ 59 歳	5	0	5	0.00
60 ～ 64 歳	1	0	1	0.00
65 ～ 69 歳	2	0	2	0.00
70 ～ 74 歳	3	2	1	66.67
75 ～ 79 歳	4	0	4	0.00
80 歳 以 上	2	0	2	0.00
計	21	2	19	9.52

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精 密 検 査 受診者数 d	精 密 検 査 受診率 (%) $e = d/b$	精 密 検 査 結 果				乳 がん 発見率 (%) $g = f/a$	陽 性 反 応 適 中 度 (%) $h = f/d$
			異 常 認 め ず	そ の 他 の 疾 病	乳 がん 疑 い	乳 がん f		
40～44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
45～49歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
50～54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
55～59歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
70～74歳	2	100.0	0	1	0	1	33.333	50.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	2	100.0	0	1	0	1	4.762	50.0

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一 次 検 診 受 診 者 数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) $c' = b'/a'$
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	1	0	1	0.00
病 院	6	2	4	33.33
診 療 所	14	0	14	0.00
そ の 他	0	0	0	0.00
計	21	2	19	9.52

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 (人) d'	精密検査 受診率 (%) e' = d' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率 (%) g' = f' / a'	陽性反応 適中度 (%) h' = f' / d'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん f'		
保健事業団	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
病 院	2	100.0	0	1	0	1	16.667	50.0
診 療 所	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
そ の 他	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	2	100.0	0	1	0	1	4.762	50.0

4) 平成23年度乳がん検診受診状況（視触診のみ）

市町村名	受診者数			要 精 検 者 数						精 密 検 査 結 果 別 人 員						
	車検診	施 設 検 診	計	車検診	施 設 検 診	計	要精検 率 (%)	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	異 常 認めず	その他 の疾病	が ん 疑い	が ん	有 所 見 者	が ん発見 率 (%)	陽性反応 適中度 (%)
	B	C	D=B+C	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J
倉吉市	0	9	9	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
境港市	0	8	8	0	2	2	25.00	2	100.0	0	1	0	1	2	12.500	50.0
若桜町	1	0	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
湯梨浜町	0	2	2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
南部町	0	1	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合 計	1	20	21	0	2	2	9.52	2	100.0	0	1	0	1	2	4.762	50.0
東 部	1	0	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
中 部	0	11	11	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
西 部	0	9	9	0	2	2	22.22	2	100.0	0	1	0	1	2	11.111	50.0

(4) 平成23年度乳がん検診発見患者確定調査結果

1) 登録届け出数 76 (視触診のみで発見された「がん：1例」含む)

確定乳癌 70 (両側1例)

調査中2、良性・経過観察4

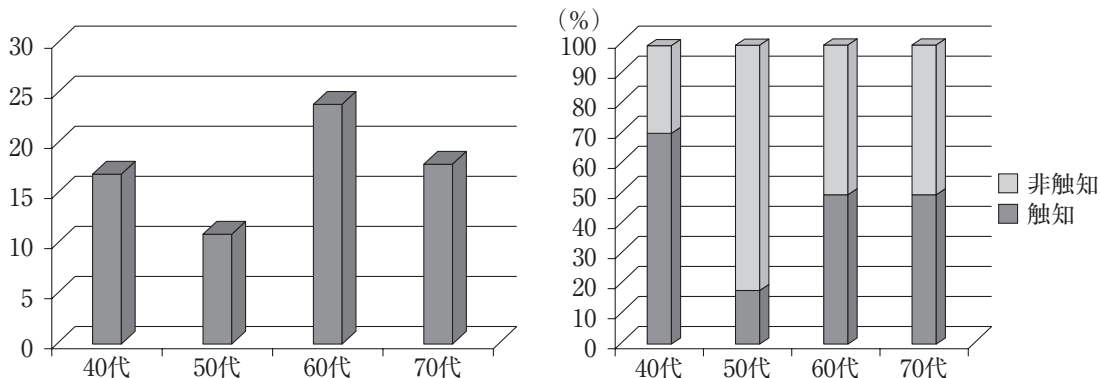
鳥取市19、米子市22、倉吉市7、境港市6

北栄町3、大山町3、南部町3、岩美町2、八頭町2、智頭町2、湯梨浜町2

琴浦町2、三朝町1、伯耆町1、江府町1

2) 年齢構成 平均年齢 59.7歳

平成23年度



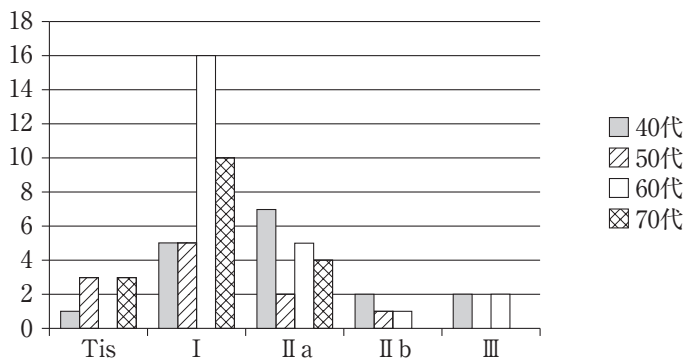
一次検診医の診断

要精検

35 (MMGで所見無し 3例：42, 58, 73歳)

異常なし (= MMG発見) 35

3) 病期分類



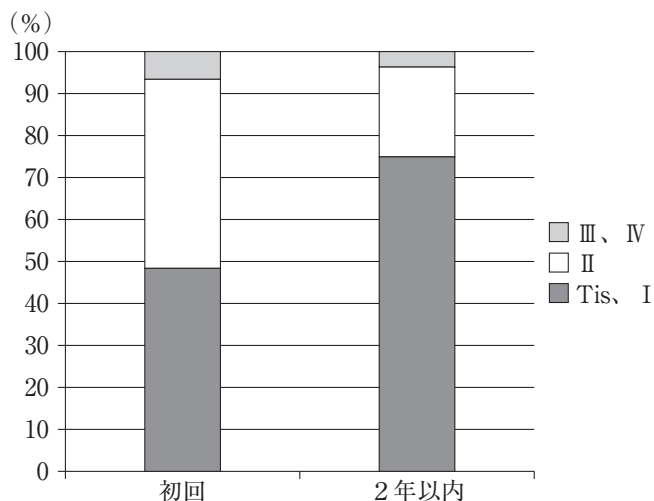
4) 組織型

非浸潤癌10、

浸潤癌57 (小葉癌5、髓様癌2、粘液癌2、管状癌1)

悪性葉状腫瘍1、不明2

5) 検診歴



6) 手術術式 手術数 67例、68乳腺

治療拒否 1例、手術なし 1例、県外施設 1例

	乳房温存術	乳房切除術
MMG発見	28	6
触知	26	8
	54	14

腋窩郭清	あり	SLNB	なし
MMG発見	8	23	3
触知	9	25	0
	17	48	3

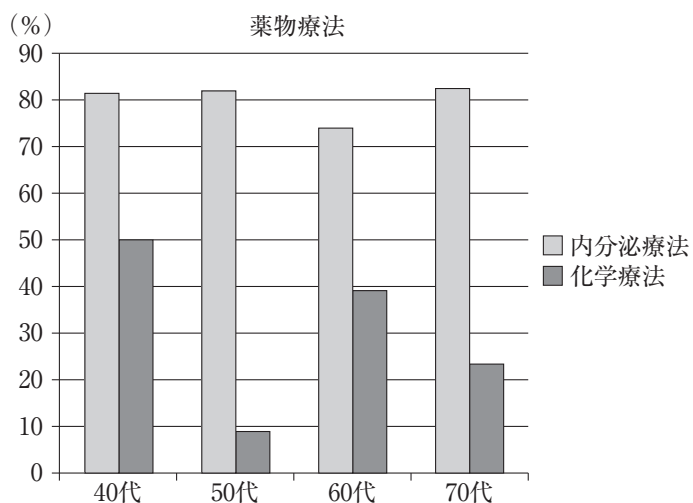
リンパ節転移の有無 9/61

MMG発見乳癌 3/29 (1-2個)

触知乳癌 6/32 (1-5個)

7) 薬物治療

	化学療法	内分泌療法	なし
MMG発見	10/34	28/34	1
触知	12/33	25/33	3
	22/67 (32.8%)	53/67 (79.1%)	



まとめ

1. 平成23年度検診発見乳癌は70例で、非浸潤癌は10例であり、1例悪性葉状腫瘍であった。
2. 40歳代の増加が認められた。
3. 繰り返し検診は早期癌が70%以上あり、比較読影の影響が示唆された。
4. 術式は触知乳癌とMMG発見乳癌で差はなく、センチネルリンパ節生検が多くの施設で標準治療となってきた。
5. 40代は進行癌が多く、化学療法も多くが受けていた。40歳代の検診方法は触診とマンモグラフィだけでは限界があると思われた。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は190,556人で、このうち受診者数は52,192人、受診率は27.4%で、前年度に比べ1.2ポイント増加した。受診者数、受診率とも上昇傾向にあるが、平成22年度は県が無料クーポン補助事業を行い、平成23年度は国が働く世代（40歳～60歳）のうち、5歳きざみ年齢を対象とした補助事業を開始したことが影響していると考えられる。69歳未満の受診率は30%ぐらいである。

このうち要精検者数は4,307人で、要精検率8.25%、精検受診者は3,340人、精検受診率77.5%で、わずかながら増加傾向にある。

精密検査の結果、大腸がんは131人、大腸がん疑いは9人であった。がん発見率（がん/受診者数）は0.25%、陽性反応適中度（がん/精検受診者数）は3.9%であった。

国のプロセス指標は要精検率許容値7.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.13%以上、陽性反応適中度許容値1.9%以上としているが、要精検率は許容値を上回り、精密検査受診率は90%に程遠いが、がん発見率、陽性反応適中度についてはいずれもいい成績であり、精度が保たれていると思われる。

要精検率は東部8.3%、中部7.3%、西部8.7%、がん発見率は東部0.278%、中部0.205%、西部0.244%、陽性反応適中度は東部4.3%、中部3.8%、西部3.6%で、圏域での差がみられなくなった。

しかし、検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団6.6%、中国労働衛生協会4.9%、病院9.5%、診療所9.3%で、例年と同様に医療機関の要精検率が高い。

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い140例について確定調査を行った結果、確定癌131例（地域検診41例、施設検診90例）、腺腫4例、非がん2例、県外転院1例、未受診1例、調査中1例であった。そのうち早期がんは80例、早期癌率は61.1%であった。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

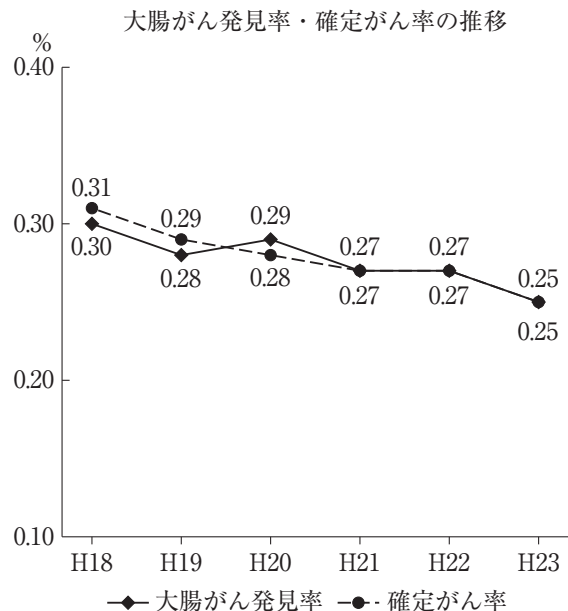
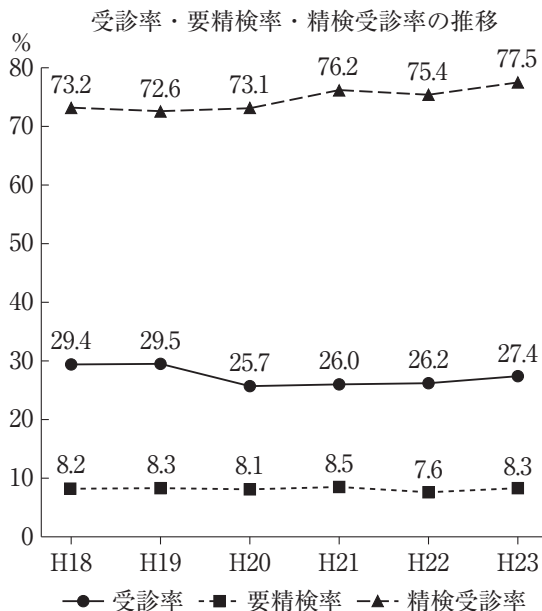
- (1) 性及び年齢では男女とも60歳以上からがんが多く発見された。
40歳代からがんが5例発見されている。
- (2) 部位では「R」と「S」が64.8%、肉眼分類では「2」32.1%であった。早期癌の肉眼分類では「Ip」「Isp」が63.8%であった。
- (3) 大きさは、10mm以下が39例（29.8%）であった。
- (4) Dukes分類は「A」が69.5%、組織型分類は「Well」が54.2%、「Mod」が35.1%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が29例（22.1%）、内視鏡下手術39例（29.8%）、内視鏡治療は62例（47.3%）であった。4年ほど前から外科手術から内視鏡治療にシフトしている。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは20例（東部9例、中部2例、西部9例）であった。

20例中、前年度の結果が要精検だったのが5件あり、ポリープ1年後再検査が1件、非腺腫1件、異常なし2件、精検未受診2件であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	176,794	175,367	188,186	188,186	188,186	190,556
	受 診 者 数(人) B	52,026	51,773	48,409	48,949	49,374	52,192
	受 診 率(%) C = B/A	29.4	29.5	25.7	26.0	26.2	27.4
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	47,782	47,468	44,497	44,780	45,598	47,885
	要 精 検 者 数(人) E	4,244	4,305	3,912	4,169	3,776	4,307
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	8.16	8.32	8.08	8.52	7.65	8.25
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,108	3,126	2,858	3,178	2,848	3,340
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	73.2	72.6	73.1	76.2	75.4	77.5
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	156(9)	145(5)	138(5)	134(8)	133(5)	131(9)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.30	0.28	0.29	0.27	0.27	0.25
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G 指標：許容値1.9%以上	5.0	4.6	4.8	4.2	4.7	3.9
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	159	149	136	134	132	131
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.31	0.29	0.28	0.27	0.27	0.25

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成23年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	652	1,291	30.2	31.9	31.3	27	73	625	1,218	4.14	5.65	5.15
45～49歳	2,326	3,853	556	1,340	23.9	34.8	30.7	35	78	521	1,262	6.29	5.82	5.96
50～54歳	3,058	4,974	798	1,856	26.1	37.3	33.0	60	116	738	1,740	7.52	6.25	6.63
55～59歳	4,908	8,189	1,253	2,780	25.5	33.9	30.8	108	169	1,145	2,611	8.62	6.08	6.87
60～64歳	9,854	13,797	3,307	5,631	33.6	40.8	37.8	302	361	3,005	5,270	9.13	6.41	7.42
65～69歳	11,061	14,574	3,467	5,101	31.3	35.0	33.4	331	362	3,136	4,739	9.55	7.10	8.09
70～74歳	11,588	16,049	3,787	5,614	32.7	35.0	34.0	376	460	3,411	5,154	9.93	8.19	8.89
75～79歳	11,797	17,672	3,228	4,860	27.4	27.5	27.4	349	363	2,879	4,497	10.81	7.47	8.80
80歳以上	15,558	35,092	2,771	3,900	17.8	11.1	13.2	341	396	2,430	3,504	12.31	10.15	11.05
計	72,308	118,248	19,819	32,373	27.4	27.4	27.4	1,929	2,378	17,890	29,995	9.73	7.35	8.25
合計	190,556		52,192		27.4			4,307		47,885		8.25		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f / d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h / b			j = h / f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	18	55	66.7	75.3	73.0	7	37	11	16	0	0	0	2	0.000	0.155	0.103	0.0	3.6	2.7
45～49歳	26	56	74.3	71.8	72.6	7	29	17	25	0	0	2	2	0.360	0.149	0.211	7.7	3.6	4.9
50～54歳	38	84	63.3	72.4	69.3	9	38	29	46	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	76	133	70.4	78.7	75.5	20	68	52	63	0	0	4	2	0.319	0.072	0.149	5.3	1.5	2.9
60～64歳	228	289	75.5	80.1	78.0	48	120	160	164	1	0	19	5	0.575	0.089	0.269	8.3	1.7	4.6
65～69歳	255	297	77.0	82.0	79.7	60	129	181	157	1	1	13	10	0.375	0.196	0.268	5.1	3.4	4.2
70～74歳	293	393	77.9	85.4	82.1	81	155	194	225	2	2	16	11	0.422	0.196	0.287	5.5	2.8	3.9
75～79歳	282	311	80.8	85.7	83.3	73	127	191	175	1	0	17	9	0.527	0.185	0.321	6.0	2.9	4.4
80歳以上	259	247	76.0	62.4	68.7	86	109	158	133	1	0	14	5	0.505	0.128	0.285	5.4	2.0	3.8
計	1,475	1,865	76.5	78.4	77.5	391	812	993	1,004	6	3	85	46	0.429	0.142	0.251	5.8	2.5	3.9
合計	3,340		77.5			1,203		1,997		9		131		0.251			3.9		

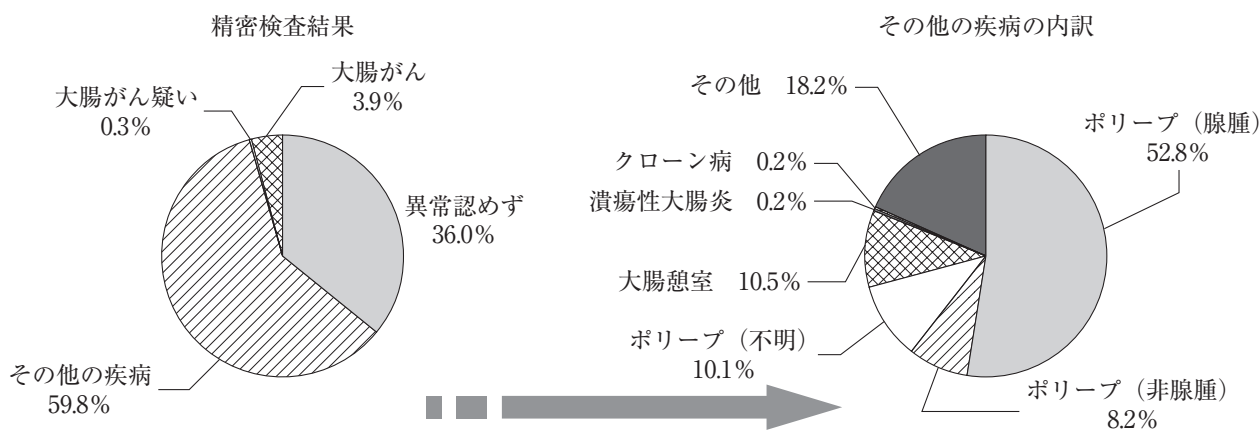
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	7,495	11,812	607	676	6,888	11,136	8.10	5.72	6.65
中国労働衛生協会	345	489	23	18	322	471	6.67	3.68	4.92
地域検診小計	7,840	12,301	630	694	7,210	11,607	8.04	5.64	6.57
病院	3,299	5,217	358	448	2,941	4,769	10.85	8.59	9.46
診療所	8,680	14,855	941	1,236	7,739	13,619	10.84	8.32	9.25
施設検診小計	11,979	20,072	1,299	1,684	10,680	18,388	10.84	8.39	9.31
計	19,819	32,373	1,929	2,378	17,890	29,995	9.73	7.35	8.25
合計	52,192		4,307		47,885		8.25		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / d'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	443	527	73.0	78.0	75.6	122	240	298	268	1	0	22	19	0.294	0.161	0.212	5.0	3.6	4.2
中国労働衛生協会	15	13	65.2	72.2	68.3	6	8	7	5	0	0	2	0	0.580	0.000	0.240	13.3	0.0	7.1
地域検診小計	458	540	72.7	77.8	75.4	128	248	305	273	1	0	24	19	0.306	0.154	0.213	5.2	3.5	4.3
病院	275	344	76.8	76.8	76.8	66	159	196	180	3	1	10	4	0.303	0.077	0.164	3.6	1.2	2.3
診療所	742	981	78.9	79.4	79.1	197	405	492	551	2	2	51	23	0.588	0.155	0.314	6.9	2.3	4.3
施設検診小計	1,017	1,325	78.3	78.7	78.5	263	564	688	731	5	3	61	27	0.509	0.135	0.275	6.0	2.0	3.8
計	1,475	1,865	76.5	78.4	77.5	391	812	993	1,004	6	3	85	46	0.429	0.142	0.251	5.8	2.5	3.9
合計	3,340		77.5			1,203		1,997		9		131		0.251			3.9		



4) 平成23年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)				受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員					
	A	B	C	計	施設検診	地域検診	計	要精検率 (%)	精検 受診者数	精検受診 率(%)	異認めず L	常その 疾病	他の 疾病	がん疑い N	O	人が 有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D
鳥取市	57,433	2,947	12,825	15,772	0	163	1,377	8.73	1,091	79.2	428	608	7	48	663	0.304	4.4
米子市	42,442	0	12,192	12,192	0	0	1,112	9.12	865	77.8	271	564	0	30	594	0.246	3.5
倉吉市	17,700	1,717	1,183	2,900	133	1	243	8.38	173	71.2	72	96	0	5	101	0.172	2.9
境港市	11,307	63	2,374	2,437	1	1	260	10.67	220	84.6	76	133	1	10	144	0.410	4.5
岩美町	4,844	1,143	243	1,386	86	86	96	6.93	76	79.2	24	49	0	3	52	0.216	3.9
八頭町	6,534	2,447	304	2,751	178	27	205	7.45	149	72.7	59	83	0	7	90	0.254	4.7
若桜町	1,776	407	359	766	14	14	38	4.96	28	73.7	7	20	0	1	21	0.131	3.6
智頭町	3,263	162	717	879	14	14	65	7.39	50	76.9	14	35	0	1	36	0.114	2.0
湯梨浜町	5,964	1,141	551	1,692	72	48	120	7.09	98	81.7	46	51	0	1	52	0.059	1.0
三朝町	2,767	629	69	698	37	7	44	6.30	29	65.9	10	16	0	3	19	0.430	10.3
北栄町	5,729	2,151	210	2,361	144	16	160	6.78	117	73.1	43	72	0	2	74	0.085	1.7
琴浦町	7,221	2,029	91	2,120	134	10	144	6.79	114	79.2	42	63	0	9	72	0.425	7.9
南部町	4,221	708	806	1,514	39	73	112	7.40	88	78.6	26	60	0	2	62	0.132	2.3
伯耆町	4,533	1,292	59	1,351	91	3	94	6.96	72	76.6	23	48	0	1	49	0.074	1.4
日吉津村	995	296	0	296	22	0	22	7.43	13	59.1	4	9	0	0	9	0.000	0.0
大山町	7,503	1,122	0	1,122	83	0	83	7.40	71	85.5	23	45	1	2	48	0.178	2.8
日南町	2,966	763	68	831	56	19	75	9.03	46	61.3	17	28	0	1	29	0.120	2.2
日野町	1,783	435	0	435	23	0	23	5.29	17	73.9	6	8	0	3	11	0.690	17.6
江府町	1,575	689	0	689	34	0	34	4.93	23	67.6	12	9	0	2	11	0.290	8.7
合計	190,556	20,141	32,051	52,192	1,324	2,983	4,307	8.25	3,340	77.5	1,203	1,997	9	131	2,137	0.251	3.9
東部	73,850	7,106	14,448	21,554	455	1,326	1,781	8.26	1,394	78.3	532	795	7	60	862	0.278	4.3
中部	39,381	7,667	2,104	9,771	520	191	711	7.28	531	74.7	213	298	0	20	318	0.205	3.8
西部	77,325	5,368	15,499	20,867	349	1,466	1,815	8.70	1,415	78.0	458	904	2	51	957	0.244	3.6

(3) 平成23年度大腸がん検診発見患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	16	18	10	44	51	2	43	96	67	20	53	140
確定癌	16	16	9	41	46	2	42	90	62	18	51	131
腺腫	0	0	1	1	2	0	1	3	2	0	2	4
その他	0	2	0	2	3	0	0	3	3	2	0	5

※その他：異常なし2件、県外へ転院のため不明1件、未受診1件、調査中1件

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	0	2	3	2	4	9	3	23
	女	1	2	0	0	3	5	2	3	2	18
	計	1	2	0	2	6	7	6	12	5	41
施設	男	0	1	0	2	16	11	11	9	12	62
	女	1	0	0	2	2	6	11	3	3	28
	計	1	1	0	4	18	17	22	12	15	90
計	男	0	1	0	4	19	13	15	18	15	85
	女	2	2	0	2	5	11	13	6	5	46
総計		2	3	0	6	24	24	28	24	20	131

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	4	5	3	12	15	0	10	25	37(28.2)
S	7	6	4	17	20	0	11	31	48(36.6)
D	1	0	0	1	1	0	1	2	3(2.3)
T	2	1	0	3	4	0	7	11	14(10.7)
A	0	2	2	4	4	2	9	15	19(14.5)
C	1	2	0	3	2	0	4	6	9(6.9)
V	1	0	0	1	0	0	0	0	1(0.8)
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	16	16	9	41	46	2	42	90	131

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	6	8	3	17	9	2	11	22	39(29.8)
11～20	5	5	2	12	16	0	18	34	46(35.1)
21～50	5	3	3	11	18	0	9	27	38(29.0)
51～	0	0	1	1	3	0	3	6	7(5.3)
不明	0	0	0	0	0	0	1	1	1(0.8)
計	16	16	9	41	46	2	42	90	131

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	26	54	80(61.1)
1	1	5	6(4.6)
2	14	28	42(32.1)
3	0	3	3(2.3)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	0	0
計	41	90	131

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	2	16	18(22.5)
I sp	17	16	33(41.3)
I s	2	5	7(8.8)
II a	3	9	12(15.0)
II a+ II c	1	3	4(5.0)
II b	0	0	0
II c	0	2	2(2.5)
III	0	0	0
その他	1	2	3(3.8)
不明	0	1	1(1.3)
計	26	54	80

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	8	7	5	21	1	18	60(45.8)
sm	2	4	0	4	1	9	20(15.3)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	10	11	5	25	2	27	80(61.1)
mp	1	2	1	5	0	5	14(10.7)
ss	3	3	3	11	0	8	28(21.4)
se	2	0	0	4	0	1	7(5.3)
si	0	0	0	1	0	1	2(1.5)
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	16	16	9	46	2	42	131

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	12	12	7	27	2	31	91(69.5)
B	1	2	0	10	0	2	15(11.5)
C	2	1	2	9	0	7	21(16.0)
D	1	0	0	0	0	0	1(0.8)
不明	0	1	0	0	0	2	3(2.3)
計	16	16	9	46	2	42	131

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	10	9	3	26	0	23	71(54.2)
Mod	5	7	4	15	2	13	46(35.1)
Por	0	0	1	0	0	1	2(1.5)
Muc	0	0	0	2	0	2	4(3.1)
その他	1	0	1	2	0	2	6(4.6)
不明	0	0	0	1	0	1	2(1.5)
計	16	16	9	46	2	42	131

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	3	2	1	8	1	14	29(22.1)
内視鏡下手術	4	5	3	16	0	11	39(29.8)
内視鏡治療	9	9	5	22	1	16	62(47.3)
その他不明	0	0	0	0	0	1	1(0.8)
計	16	16	9	46	2	42	131

表11 平成23年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No.	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果		
												検診方式	便 潜 血	精密結果
地域 検診	東部	1	70	男性	虫垂	15mm	MP	1	Well	- +	I	地域検診	- . -	
		2	83	男性	直腸	47mm	SS(A)	2	Mod	- +	III b	地域検診	- . -	
	中部	3	67	女性	上行結腸	32mm	SS(A)	2	Mod	++	III b	地域検診	- . -	
		4	78	男性	S状結腸	15mm	MP	2	Well	- +	I	地域検診	+ . +	非腺腫多 発、治療 不要
	西部	5	48	女性	上行結腸	40mm	SS(A)	2	Well	+ -	II	地域検診	- . -	
		6	70	女性	上行結腸	35mm	MP	2	Mod	++	I	地域検診	- . -	
施設 検診	東部	7	80	男性	直腸	40mm	MP	2	MUC	- +	III a	施設検診	-・(1本のみ)	
		8	68	女性	S状結腸	30mm	SS(A)	2	Well	++	II	地域検診	- . -	
		9	75	女性	盲腸	40mm	MP	2	Mod	+ -	I	施設検診	- . -	
		10	78	男性	横行結腸	40mm	SE	2	Well	++	III b	施設検診	- . -	
		11	84	男性	上行結腸	30mm	SE	2	Mod	++	III a	施設検診	- . -	
		12	74	女性	上行結腸	50mm	SS(A)	2	Mod	++	II	施設検診	- . -	
		13	74	男性	S状結腸	27mm	SS(A)	2	Mod	++	III a	施設検診	- . -	
	西部	14	68	男性	S状結腸	30mm	SS(A)	2	Mod	++	II	施設検診	- . -	
		15	71	女性	S状結腸	18mm	SS(A)	1	Mod	++	III a	施設検診	- . +	未受診
		16	74	男性	S状結腸	20mm	SS(A)	1	Well	++	III b	施設検診	- . +	異常なし
		17	76	男性	S状結腸	mm	SI	3	Mod	++	不明	施設検診	+ . +	未受診
		18	78	女性	盲腸	23mm	SS(A)	2	Mod	++	II	施設検診	- . +	ポリープ 1年後再 検査
		19	82	男性	S状結腸	15mm	MP	2	Mod	++	I	施設検診	- . -	
		20	79	女性	上行結腸	40mm	MP	2	Well	++	I	施設検診	- . -	

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成23年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成23年度は16市町村で実施し、対象者数198,670人（前年度175,670人）のうち、受診者数は3,374人（前年度2,476人）で受診率は1.7%（前年度1.4%）であった。要精検者数はHBs抗原陽性者56人、HCV抗体陽性者24人で、受診者数の2.37%であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は1.7%、HCV抗体陽性率は0.7%で前年度とほぼ同様の結果であった。また、要精検者80人のうち精検受診者は49人、精検受診率は61.3%（前年度56.2%）で、前年度に比べ5.1%増であった。精検受診者49人のうち、肝臓がん確定は2人（HBs抗原陽性1人・HCV抗体陽性1人）であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は14市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導 対象者 (人)	定期検査 受診者数 (人)	定 期 検 査 結 果			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,552	711	125 (17.6)	11 (1.5)	1 (0.1)	1 (0.1)
C型肝炎ウイルス陽性者	921	413	219 (53.0)	17 (4.1)	9 (2.2)	3 (0.7)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成23年度の17年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数は120,043人、推計受診率は62.4%であり、そのうちHBs抗原陽性者は2,902人(2.42%)、HCV抗体陽性者は3,586人(2.99%)であった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

(1) 平成7年度から平成22年度の肝臓がん検診発見がん患者の追跡調査では、確定がんは23人であった。また平成10年度から平成22年度の定期検査中に発見された確定がんは111人であった。

肝臓がん検診発見がん患者23人のうち、21人は死亡、生存中は2人であった。また、定期検査中に発見されたがん患者111人のうち、70人は死亡(他病死を含む)、生存中は39人、追跡不能2人であった。

このデータから、フォローアップが非常に大事であることが分かる。

(2) 平成23年度肝炎ウイルス検査からは発見されたがん疑い2名は、確定調査の結果、2名ともがんであった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、がん及びがん疑いの者が14名発見され、そのうち6名は過去の検診、定期検査で既にごんと診断されていた。残り8名の確定調査を行った結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が1名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が5名であった。そのうち、治療経過が把握できていないが、8cmの癌が発見されている。また、現在精査中のものが1件、がんでなかったものが1名であった。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

1) 一次検診

年 度	受 診 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
H21	3,093	61	2.0	18	0.6
H22	2,476	54	2.2	19	0.8
H23	3,374	56	1.7	24	0.7

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない

2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
H21	78	39	50.0	0	0.00
H22	73	41	56.2	0	0.00
H23	80	49	61.3	0	0.00

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 年齢階級別受診状況

区 分	平成23年度			平成7～23年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	543	0.2	0.2	9,386	2.75	0.88
45～49歳	268	1.9	1.1	8,652	3.69	1.56
50～54歳	295	0.7	0.3	10,330	3.59	1.85
55～59歳	395	1.8	0.3	12,950	2.93	2.49
60～64歳	852	2.5	0.7	20,960	2.37	3.15
65～69歳	512	2.1	0.8	22,448	2.21	3.60
70～74歳	370	2.2	1.4	19,870	1.76	3.83
75～79歳	68	0.0	1.5	9,007	1.55	4.12
80歳以上	71	1.4	2.8	6,440	1.44	3.96
計	3,374	1.7	0.7	120,043	2.42	2.99

(2) 平成23年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一次検診 受 診 者 数 (人) a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) e = (b + d) / a			HCV抗体陽性率 (%) f = (c + d) / a		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b		HCV抗体 のみ陽性 c		HBs・HCV ともに陽性 d							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	202	341	201	340	0	1	1	0	0	0	0.0	0.3	0.2	0.5	0.0	0.2
45～49歳	111	157	108	152	1	4	2	1	0	0	0.9	2.5	1.9	1.8	0.6	1.1
50～54歳	92	203	90	202	1	1	1	0	0	0	1.1	0.5	0.7	1.1	0.0	0.3
55～59歳	163	232	160	227	2	5	1	0	0	0	1.2	2.2	1.8	0.6	0.0	0.3
60～64歳	413	439	397	428	12	9	4	2	0	0	2.9	2.1	2.5	1.0	0.5	0.7
65～69歳	294	218	287	210	5	6	2	2	0	0	1.7	2.8	2.1	0.7	0.9	0.8
70～74歳	185	185	178	179	4	4	3	2	0	0	2.2	2.2	2.2	1.6	1.1	1.4
75～79歳	41	27	40	27	0	0	1	0	0	0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	1.5
80歳以上	24	47	23	45	1	0	0	2	0	0	4.2	0.0	1.4	0.0	4.3	2.8
計	1,525	1,849	1,484	1,810	26	30	15	9	0	0	1.7	1.6	1.7	1.0	0.5	0.7
合 計	3,374		3,294		56		24		0		1.7			0.7		

3) 検診機関別

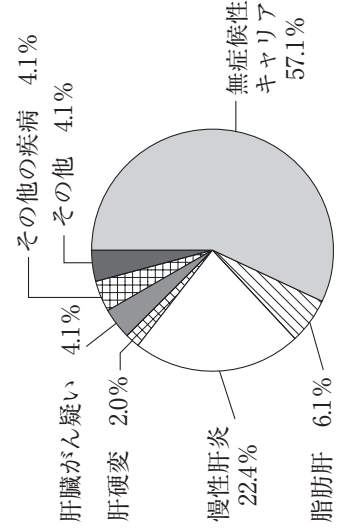
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 (人) a'		一 次 検 診 結 果									HBs抗原陽性率 (%) $e' = (b' + d')/a'$			HCV抗体陽性率 (%) $f' = (c' + d')/a'$		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		HBs・HCV ともに陽性 d'		男	女	計	男	女	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							計
直 営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	582	688	567	679	9	6	6	3	0	0	1.5	0.9	1.2	1.0	0.4	0.7	
中国労働衛生協会	12	32	12	31	0	1	0	0	0	0	0.0	3.1	2.3	0.0	0.0	0.0	
病 院	257	342	250	341	3	1	4	0	0	0	1.2	0.3	0.7	1.6	0.0	0.7	
診 療 所	674	787	655	759	14	22	5	6	0	0	2.1	2.8	2.5	0.7	0.8	0.8	
計	1,525	1,849	1,484	1,810	26	30	15	9	0	0	1.7	1.6	1.7	1.0	0.5	0.7	
合 計	3,374		3,294		56		24		0		1.7			0.7			

b. 精密検査結果

一次 検査機関	区分	精密検査 受診者数 (人)		精密検査結果										肝臓がん 発見率 (%) h' = g' / a'			
		男	女	健康					診断名					その他			
				脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん g'		その他の疾病		男	女
無症候性キャリア		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
直 営	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保 健 事 業 団	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	2	4	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	5	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中 国 労 働 衛 生 協 会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	全 体	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
病 院	ともに陽性	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	C型陽性	9	13	6	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診 療 所	ともに陽性	5	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	14	17	9	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	13	19	9	12	2	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	ともに陽性	12	5	3	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	25	24	12	16	2	1	6	5	1	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	32	21	9	12	2	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
合 計	ともに陽性	17	7	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	49	28	21	16	3	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000

精密検査結果 (肝炎ウイルス検査)



※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認めたと認めた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

4) 平成23年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
 実施市町村数=16 未実施市町村数=3

市町村名	対象者数		受診者数			陽性者数			精密検査結果				人員					
	A	集団検診	医療機関	計	受診率 (%)	HBs抗原のみ陽性	HCV抗体のみ陽性	HBs抗原HCV抗体ともに陽性	HCV抗体陽性率 (%)	HBs抗原陽性率 (%)	HCV抗体陽性率 (%)	精受診者数	精受診率 (%)	無症候性キヤリア	その他の疾病	がん疑い	がん	有所見者
		B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H	J=(G+H)/D	I=(F+H)/D	K	L=(I+K+H)	M	N	O	P	Q=N+O+P	R=P/D
鳥取市	59,099	347	1,384	1,731	2.9	29	9	0	1.7	0.5	23	60.5	13	10	0	0	10	0.000
米子市	66,916	0	82	82	0.1	4	0	0	4.9	0.0	3	75.0	3	0	0	0	0	0.000
倉吉市	18,999	251	0	251	1.3	1	5	0	0.4	2.0	3	50.0	0	3	0	0	3	0.000
境港市	7,198	0	190	190	2.6	2	3	0	1.1	1.6	3	60.0	2	0	1	0	1	0.000
岩美町	2,567	0	54	54	2.1	1	2	0	1.9	3.7	2	66.7	1	1	0	0	1	0.000
八頭町	11,604	139	104	243	2.1	3	1	0	1.2	0.4	1	25.0	0	1	0	0	1	0.000
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	3,593	47	42	89	2.5	1	1	0	1.1	1.1	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	7,868	82	36	118	1.5	4	2	0	3.4	1.7	4	66.7	2	2	0	0	2	0.000
三朝町	2,767	55	35	90	3.3	1	0	0	1.1	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	255	83	0	83	32.5	1	0	0	1.2	0.0	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000
琴浦町	5,354	83	0	83	1.6	1	0	0	1.2	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
南部町	5,069	37	75	112	2.2	2	1	0	1.8	0.9	3	100.0	2	0	1	0	1	0.000
伯耆町	4,533	112	0	112	2.5	2	0	0	1.8	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	45	5	0	5	11.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	1,404	57	58	115	8.2	3	0	0	2.6	0.0	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江府町	1,399	16	0	16	1.1	1	0	0	6.3	0.0	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000
合計	198,670	1,314	2,060	3,374	1.7	56	24	0	1.7	0.7	49	61.3	28	19	2	0	21	0.000
東部	76,863	533	1,584	2,117	2.8	34	13	0	1.6	0.6	28	59.6	16	12	0	0	12	0.000
中部	35,243	554	71	625	1.8	8	7	0	1.3	1.1	9	60.0	3	6	0	0	6	0.000
西部	86,564	227	405	632	0.7	14	4	0	2.2	0.6	12	66.7	9	1	2	0	3	0.000

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 平成7～23年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成23年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成23年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成24年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	男	女	男	女	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	その他				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
40～44歳	2	10	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	16	34	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	40	73	12	27	1	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	46	93	11	43	0	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	92	173	32	79	0	10	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	112	162	56	86	3	11	13	0	3	2	0	1	1	0	2	0
70～74歳	85	149	53	90	1	13	16	2	0	1	0	0	1	1	1	1
75～79歳	85	150	43	74	0	7	10	1	1	1	0	1	2	2	1	2
80歳以上	75	155	32	59	0	4	10	1	0	0	0	0	0	0	2	1
計	553	999	241	470	5	54	71	4	6	4	0	1	4	3	6	4
合計 (比率%)	1,552		711 (100)		21 (3.0)	125 (17.6)		11 (1.5)		4 (0.6)	1 (0.1)	7 (1.0)	10 (1.4)			

2) 平成23年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成23年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成24年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	男	女	男	女	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	その他				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
40～44歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	5	12	1	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
55～59歳	13	12	2	5	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
60～64歳	23	44	8	18	0	4	11	0	1	0	0	0	1	0	0	0
65～69歳	26	60	9	33	0	2	18	0	1	0	1	0	1	1	1	1
70～74歳	45	111	24	61	0	16	38	2	1	0	0	1	0	0	1	1
75～79歳	67	144	37	76	1	21	44	1	1	0	1	0	0	0	0	2
80歳以上	103	250	41	93	0	20	39	3	7	0	0	0	0	0	1	1
計	285	636	123	290	1	66	153	6	11	1	0	2	3	1	2	6
合計 (比率%)	921		413 (100)		6 (1.5)	219 (53.0)		17 (4.1)		1 (0.2)	3 (0.7)	4 (1.0)	8 (1.9)			

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～23年度肝臓がん検診結果

年齢階級	一次検診		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
	受診者数(人)		陽性者数		陽性率(%)			陽性者数		陽性率(%)		
	a		b		c = b/a			d		e = d/a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	2,952	6,434	98	160	3.32	2.49	2.75	37	46	1.25	0.71	0.88
45～49歳	2,663	5,989	119	200	4.47	3.34	3.69	36	99	1.35	1.65	1.56
50～54歳	2,905	7,425	128	243	4.41	3.27	3.59	37	154	1.27	2.07	1.85
55～59歳	3,659	9,291	107	272	2.92	2.93	2.93	74	248	2.02	2.67	2.49
60～64歳	7,442	13,518	222	274	2.98	2.03	2.37	197	463	2.65	3.43	3.15
65～69歳	8,711	13,737	226	270	2.59	1.97	2.21	291	517	3.34	3.76	3.60
70～74歳	7,846	12,024	140	210	1.78	1.75	1.76	306	455	3.90	3.78	3.83
75～79歳	3,411	5,596	62	78	1.82	1.39	1.55	148	223	4.34	3.98	4.12
80歳以上	2,419	4,021	29	64	1.20	1.59	1.44	110	145	4.55	3.61	3.96
計	42,008	78,035	1,131	1,771	2.69	2.27	2.42	1,236	2,350	2.94	3.01	2.99
合計	120,043		2,902		2.42			3,586		2.99		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成23年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	61	男	肝癌	動注/放射	11.10.	>4個				無	B	2200
2	78	男	肝癌	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘤	有	C	18.3

2) 平成23年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	87	男	肝癌	RFA	11.4.7	単発	S5	15×16	腫瘤	無	C	7.8
2	67	男	精査中								C	14.2
3	77	女	肝癌	RFA	11	単発	S8	20×20	腫瘤	有	C	9.9
4	92	女	肝癌	TAE	11.10.4	単発	S8	20×20	腫瘤	有	C	9.2
5	78	女	肝癌	T/R	10.3.24	単発	S2/3	19×18	腫瘤	有	C	31
6	76	男	肝癌	切除	11.7.26	単発	S7	80×75	腫瘤	無	C	8.7
7	75	男	肝癌	RFA	11.7.	単発	S6	14×14	腫瘤	有	B	5.3
8	73	女	癌なし								C	11.1
9	76	男	肝癌	16年度報告済							C	
10	74	男	肝癌	18年度報告済							C	
11	78	男	肝癌	18年度報告済							C	
12	65	女	肝癌	18年度報告済							B	
13	84	男	肝癌	18年度報告済							C	
14	78	男	肝癌	21年度報告済							C	

3) 平成7年度～平成22年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	再発、6年11か月後死亡
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	1年3か月後他病死
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	無再発生存中
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、3年5か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	無	C	2年4か月後再発
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	再発、6年8か月後死亡
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	2か月後死亡
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	再発、7年3か月後死亡
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	再発、8年2か月後死亡
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	5か月後死亡
48	73	男	切除	00. 3.	不明	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	4年3か月後再発
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	再発、3年3か月後死亡
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	再発、6年2か月後死亡
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	4年1か月後他病死
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	5年8か月後再発
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発
61	68	男	肝癌否定		(単)	S6	13×13)		無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	無	C	5年8か月後再発
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	3年7か月後再発
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	再発、12年11か月後死亡
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	4年9か月後再発
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	2年10か月後再発
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	再発、1年後死亡

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
74	80	男女	RFA	02. 9.	単 発	S8		腫瘍	有	C	再発、9年6か月後死亡
75	63	男女	T/R	07. 5. 8	単 発	S8	16×16			B	予後調査中
76	73	男女	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	再発、8年後死亡
77	73	男女	切除	05. 3. 14	単 発	S45	42×28	腫瘍	無	B	再発、3年後死亡
78	74	男女	切除	06. 12. 21	単 発	S458	35×30	腫瘍	無	C	4年7か月後再発
79	60	男女	RFA	07. 7.	単 発	S7	17×12	腫瘍	無	C	無再発生存中
80	87	男女	未治療		単 発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2年7か月後他病死
81	80	男女	TAE	03. 3.	単 発	S2/3	20×20			C	再発、8年7か月後死亡
82	77	男女	TAE	08. 10. 7	単 発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2年後死亡
83	70	男女			単 発	S5	12×12			B	予後調査中
84	77	男女	TAE	09. 3. 24	2 個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1年3か月後肝不全死
85	84	男女	T/R	09. 9. 7	単 発	S7	30×30	腫瘍	有	C	無再発生存中
86	72	男女	TAE	09. 12. 18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	TAE繰り返し
87	79	男女	TAE	10. 11. 18	2 個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	無再発生存中
88	89	男女	TAE	09. 10. 6	>4個		20×20	腫瘍		C	3年9か月後死亡
89	76	男女	T/R	09. 10. 6	単 発	S3	25×25	腫瘍	有	C	無再発生存中
90	76	男女	T/R	09. 7. 22	2 個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1年7か月後死亡
91	79	男女	T/R	10. 3. 25	単 発	S7	23×23		有	C	無再発生存中
92	85	男女	切除	10. 3	単 発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
93	66	男女	TAE	09. 7	>4個	S1		浸潤	無	B	1年10か月後死亡
94	73	男女	切除	09. 10. 20	単 発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中
95	68	男女	切除	09. 8. 21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中
96	75	男女	TAE	08. 1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	2年10か月後腹膜播種
97	78	男女	精査中							C	
98	75	男女	TAE	07. 2. 11	単 発	S6			無	B	7か月後再発
99	66	男女	TAE	11. 1. 20	2 個	S5/6	12×12	腫瘍		C	無再発生存中
100	80	男女	RFA	10. 11. 09	単 発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	無再発生存中
101	64	男女	TAE	10. 11	単 発	S6	5×5	腫瘍		C	2年1か月後再発
102	75	男女	切除	08. 7. 30					無	C	無再発生存中
103	75	男女	TAE	10. 12. 08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	無	C	傍大動脈LN転移
104	69	男女	RFA	10. 4	単 発	S6	18×18		無	C	無再発生存中
105	79	男女	TAI	09. 10. 26	2 個	S7/8	18×15	腫瘍		C	2年8か月後死亡
106	71	男女	切除	07. 8. 17	単 発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	再発、4年5か月後死亡
107	85	男女	RFA	10. 7	2 個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	2年5か月後再発
108	84	男女	RFA	09. 10. 30	単 発	S8	15×15	腫瘍	有	C	無再発生存中
109	65	男女	T/R	10. 3.	単 発	S5	24×24		有	B	2年5か月後再発
110	57	男女	切除	11. 1. 18	単 発	S6	40×25	腫瘍	無	B	無再発生存中
111	78	男女	未確定/経過観察中		単 発	S5	5×5		有	C	

4) 平成7年度～平成22年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95. 10. 24	単 発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96. 2. 20	単 発	S8	40×38	腫瘍	無	C	再発、2年1か月後死亡
3	63	女	切除	96. 3. 13	単 発	S7	30×23	腫瘍	有	C	再発、15年1か月後死亡
4	83	男	TAE	96. 7. 15	単 発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96. 8. 29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96. 10. 25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96. 11. 1	2 個	S6	20×20	腫瘍	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96. 11. 22	単 発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97. 1. 7	単 発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97. 11. 17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97. 11. 17	3 個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97. 12. 4	単 発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98. 3. 3	単 発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98. 7. 31	単 発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99. 12. 15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00. 12. 23	単 発	S8	50×50	腫瘍	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01. 9. 19	単 発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04. 8. 2	2 個	S1, 5	25×25	腫瘍	有	C	再発、3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05. 10. 17	2 個	S1, 4	30×30	腫瘍	有	C	再発、3年11か月死亡
20	67	女	切除	06. 08. 09	単 発	S8	25×25			B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06. 11.	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08. 4. 21	単 発	右葉	100×100			C	37日後死亡
23	60	男	TAE	08. 4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	2年6か月後死亡

7. 全国がん検診実績との比較

平成22年度

(単位：人 %)

区 分		平成22年度実績 (鳥取県)	平成22年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	188,186	39,133,907	○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く (以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	43,296	3,775,071	
	受診率 (%)	23.0	9.6	
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数 (人)	1,259	364,898	
	要精検率 (%)	7.80	9.67	
	精検受診者数(人)	1,049	296,073	
	精検受診率 (%)	83.3	81.1	
	がんの者 (人)	142	6,769	
	がん発見率 (%)	0.33	0.18	
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	139,232	32,770,868	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(4,275,409) + (4,533,835) - (1,037,672)}{(32,770,868)} = 23.7$ 鳥取 $\frac{(26,943) + (28,453) - (12,705)}{(139,232)} = 30.6$
	受診者数 (人)	28,453	4,533,835	
	受診率 (%)	20.4 (30.6)	(23.7)	
	受診率順位	(10) 位	—	
	要精検者数 (人)	293	76,086	
	要精検率 (%)	1.03	1.68	
	精検受診者数(人)	192	50,333	
	精検受診率 (%)	65.5	66.2	
	がんの者 (人)	20	3,749	
	がん発見率 (%)	0.07	0.08	
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	188,186	39,545,597	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	45,482	6,799,918	
	受診率 (%)	24.2	17.2	
	受診率順位	17位	—	
	要精検者数 (人)	2,004	198,962	
	要精検率 (%)	4.41	2.93	
	精検受診者数(人)	1,767	154,551	
	精検受診率 (%)	88.2	77.7	
	がんの者 (人)	50	4,296	
	がん発見率 (%)	0.11	0.06	

区 分		平成22年度実績 (鳥取県)	平成22年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	118,676	24,451,364	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,502,080) + (2,492,868) - (384,343)}{(24,451,364)} = 18.8$ 鳥取 $\frac{(19,278) + (17,726) - (1,201)}{(118,676)} = 30.1$
	受診者数 (人)	17,726	2,492,868	
	受診率 (%)	14.9 (30.1)	(18.8)	
	受診率順位	(7) 位	—	
	要精検者数 (人)	1,438	217,865	
	要精検率 (%)	8.11	8.74	
	精検受診者数(人)	1,327	181,834	
	精検受診率 (%)	92.3	83.5	
	がんの者 (人)	70	8,104	
	がん発見率 (%)	0.39	0.33	
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	188,186	40,266,569	
	受診者数 (人)	49,374	6,761,698	
	受診率 (%)	26.2	16.8	
	受診率順位	4位	—	
	要精検者数 (人)	3,776	505,809	
	要精検率 (%)	7.65	7.48	
	精検受診者数(人)	2,848	321,577	
	精検受診率 (%)	75.4	63.6	
	がんの者 (人)	133	16,000	
	がん発見率 (%)	0.27	0.24	

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告 (厚生労働省)

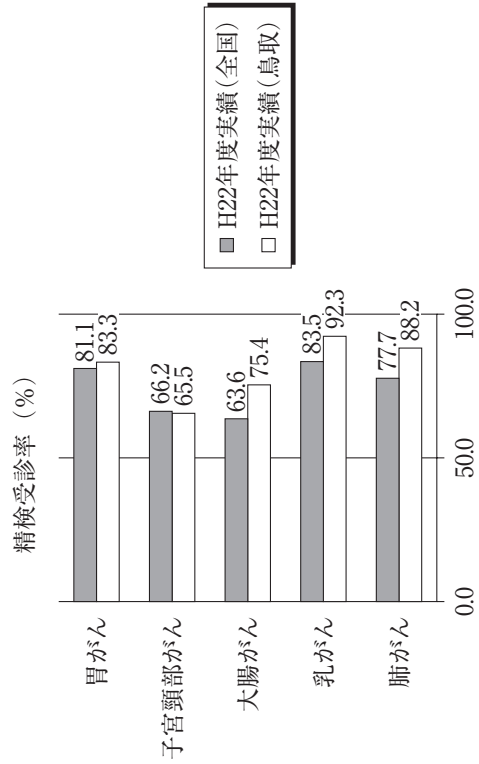
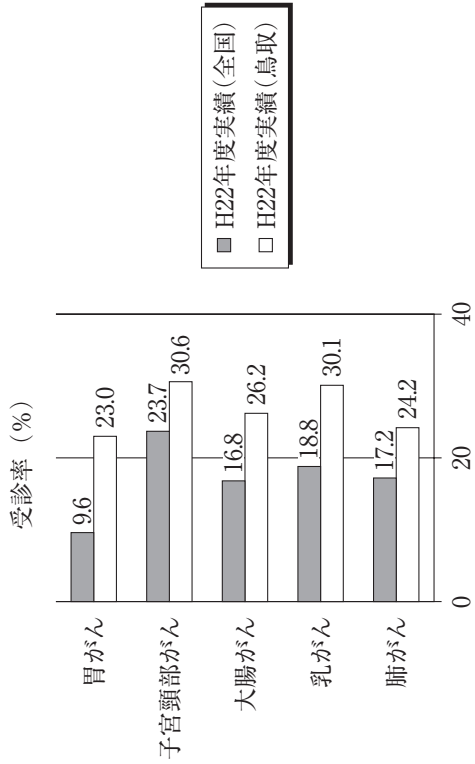
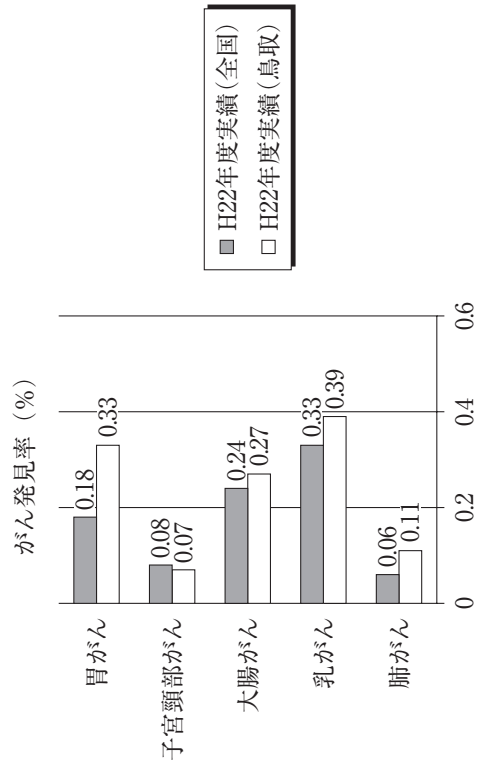
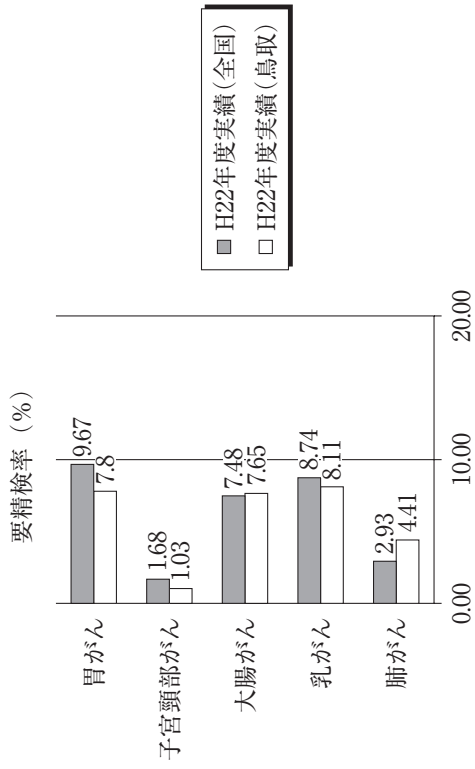
(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

2 受診率順位は厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値と比較した順位

3 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定

精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」

全国がん検診実績との比較 (平成22年度実績)



平成23年度

(単位：人 %)

区 分		平成23年度実績 (鳥取県)	平成23年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	190,556	41,317,408	○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く (以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	44,515	3,809,890	
	受診率 (%)	23.4	9.2	
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数 (人)	1,247		
	要精検率 (%)	8.30		
	精検受診者数(人)	1,022		
	精検受診率 (%)	82.0		
	がんの者 (人)	159		
	がん発見率 (%)	0.36		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	135,485	33,641,302	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(4,666,826) + (4,516,207) - (1,168,082)}{(33,641,302)} = 23.9$ 鳥取 $\frac{(28,453) + (28,247) - (15,075)}{(135,485)} = 30.7$
	受診者数 (人)	28,247	4,516,207	
	受診率 (%)	20.8 (30.7)	(23.9)	
	受診率順位	(7)位	—	
	要精検者数 (人)	174		
	要精検率 (%)	0.62		
	精検受診者数(人)	140		
	精検受診率 (%)	80.5		
	がんの者 (人)	23		
	がん発見率 (%)	0.08		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	190,556	41,610,612	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	48,513	7,087,151	
	受診率 (%)	25.5	17.0	
	受診率順位	15位	—	
	要精検者数 (人)	2,467		
	要精検率 (%)	5.09		
	精検受診者数(人)	2,208		
	精検受診率 (%)	89.5		
	がんの者 (人)	44		
がん発見率 (%)	0.09			

区 分		平成23年度実績 (鳥取県)	平成23年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	118,248	25,535,265	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,541,993) + (2,523,008) - (400,863)}{(25,535,265)} = 18.3$ 鳥取 $\frac{(17,726) + (18,194) - (1,236)}{(118,248)} = 29.3$
	受診者数 (人)	18,194	2,523,008	
	受診率 (%)	15.4 (29.3)	(18.3)	
	受診率順位	(4)位	—	
	要精検者数 (人)	1,362		
	要精検率 (%)	7.49		
	精検受診者数(人)	1,275		
	精検受診率 (%)	93.6		
	がんの者 (人)	72		
	がん発見率 (%)	0.40		
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	190,556	42,446,412	
	受診者数 (人)	52,192	7,649,103	
	受診率 (%)	27.4	18.0	
	受診率順位	4位	—	
	要精検者数 (人)	4,307		
	要精検率 (%)	8.25		
	精検受診者数(人)	3,340		
	精検受診率 (%)	77.5		
	がんの者 (人)	131		
	がん発見率 (%)	0.25		

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会資料
全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
2 受診率順位は厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値と比較した順位
3 全国の数値は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
4 要精検者数等については、平成20年度分から翌年度集計となったため、空欄としている

Ⅲ. 平成24年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成24年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開	催	日	時	場	所	出	席	者	内	容
胃	が	ん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成25年2月16日(土)	午後4時～午後5時30分	倉吉市 倉吉交流プラザ	128名	演題：「胃がん検診の精度管理についてー画像精度と読影精度向上のためにー」 講師：鳥取県立厚生病院医療局長兼内科部長 秋藤洋一先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 松永典之先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 山本宗平先生 西部—1例：山陰労災病院 神戸貴雅先生					
子宮	が	ん	子宮がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成25年2月17日(日)	午後4時～午後6時10分	鳥取市 鳥取県健康会館	59名	演題：「東京都予防医学協会における子宮頸がん検診の現況」 講師：公益財団法人東京都予防医学協会検査研究センター長 木口一成先生 症例提示4例					
肺	が	ん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成25年2月23日(土)	午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	86名	演題：「呼吸器内視鏡の現況と将来」 講師：聖マリアーナ医科大学呼吸器外科病院教授 栗本典昭先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 陶山久司先生 中部—2例：鳥取県立厚生病院 吹野俊介先生 西部—1例：鳥大医 胸部外科 荒木邦夫先生					
乳	が	ん	乳がん検診従事者講習会及び第20回鳥取県乳がん症例検討会	平成24年8月18日(土)	午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	78名	演題：「若年者乳癌」 講師：岡山大学病院乳腺・内分泌外科教授 土原博義先生 症例検討 西部—2例：博愛病院 角 賢一先生 西部—1例：鳥大医器 官再生外科学 石黒清介先生					
大腸	が	ん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成24年8月4日(土)	午後4時～午後5時40分	倉吉市 倉吉未来中心	84名	演題：「便潜血陽性でみつかる非腫瘍性疾患」 講師：大阪鉄道病院医務部長兼消化器内科部長 清水誠治先生 症例検討 東部—1例：鳥取生協病院 宮崎慎一先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 山本宗平先生 西部—1例：山陰労災病院 向山智之先生					
肝臓	が	ん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成25年3月2日(土)	午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	87名	演題：「肝細胞癌サーベイランスの現況と方策」 講師：鳥取大学医学部附属病院第2内科診療科群講師 岡野淳一先生 症例検討 東部—4例：鳥取赤十字病院 満田朱理先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 万代真理先生 西部—1例：山陰労災病院 西向栄治先生					

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成25年2月16日(土) 午後4時～午後5時30分

場 所 倉吉交流プラザ

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提供者：鳥取赤十字病院 松 永 典 子

症 例：70歳代、男性

検診歴：平成20年7月 異常なし

平成21年6月 異常なし

平成22年8月 胃角部前壁ポリープ様

経 過：平成22年8月、上記を指摘されたため近医を受診。上部消化管内視鏡検査で同部位にI型腫瘍を指摘。生検にてtubular adenocarcinomaと診断されたため精査・治療目的で当院紹介となる。病変は粘膜下腫瘍様の立ち上がりをした隆起性病変で、当院での二度の生検では腫瘍細胞は認めなかったが、腫瘍細胞が粘膜下で進展している可能性があったため、平成22年11月幽門側胃切除術が施行された。(病理：ML、20×20mm、well、T1 (SM2)、ly0、v0、n0、stage I A、curA)

検 討：平成20年、21年とも、よく見ると腫瘍辺縁に沿ったバリウムのたまりがあるように思えたが、はっきりとした病変は指摘できなかった。

前壁の隆起性病変のため体位変換時に見つけるか、バリウムの付着を促すようローリングを加えるなどの工夫が必要と思われた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 山 本 宗 平

症 例：80代、男性

検診歴：平成21年検診で胃透視検査にて異常を指摘されず。retrospectiveには異常を指摘されている。

平成22年検診で胃体部大弯に腫瘤性病変を指摘された。

EGDにてI型進行胃癌を指摘。

経 過：平成22年9月17日 開腹手術。

広範に腹膜転移をみとめ試験開腹術となった。中分化型腺癌 tub2

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 神 戸 貴 雅

76歳、男性

検診歴：平成21年8月 車検診を受診するも異常なし。

平成22年8月 車検診を受診するも異常なし。

平成23年9月 車検診で「胃体部レリーフ異常」の指摘を受け要精検となった。

経 過：平成23年11月 当院紹介となり、精査を行ったところ、GIF・精密MDLにて胃体部後壁に2型進行癌を認め、12月 胃部分切除術を施行した。(病理：SE、35×30mm、por2>tub2、ly0、v1、N1、Stage III A)

考 察：平成21年、平成22年の検診フィルムを遡及的に検討したところ、平成21年時ははっきりと指摘はできなかったが、平成22年時は病変の指摘は可能であり、見落としと考えられた。

読影医はより注意深い観察を心がける必要があると同時に、逐年検診の重要性を再確認させられた一例であった。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成25年2月17日（日） 午後4時～午後6時10分

場 所 鳥取県健康会館

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科講師、板持広明先生の進行により施設検診3例、鳥取県保健事業団（車検診）1例の症例検討が行われた。

検討内容

鳥取大学医学部産科婦人科助教 佐藤慎也医師より下記の4症例が提示された。

症例1、2は経年受診にもかかわらず子宮頸癌で発見された症例。症例3、4は子宮頸部上皮内腺癌の症例であった。各症例の細胞像および組織像を供覧しながら、臨床経過とともに検討をおこなった。

適切な細胞診検体採取の必要性を再認識した。また、ベセスダシステムにおける異型腺細胞（Atypical glandular cells, AGC）判定症例のなかには、扁平上皮系の異常も含め比較的高率に腫瘍性病変が含まれることから、AGCの出現は重要な意義をもつと考えられた。

平成24年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機 関	一次検診結果	精密検査機 関	精密検査結果			治 療機 関名
							組 織 診 断	進 行 期 分 類	TNM分類	
症例 1	61歳	米子市	H21. 07. 07	ミオ・ファティリ テイクリニック	class II	鳥取大学医 学部附属病 院	Squamous cell carcinoma	II a期	pT2aN1M0	鳥取大学 医学部附 属病院
			H23. 07. 06	ミオ・ファティリ テイクリニック	判定可 SCC Squamous cell carcinoma					
症例 2	72歳	琴浦町	H20. 07. 13	鳥取県保健 事業団	class II	打吹公園ク リニック	頸部細胞診 異常を認めず	1b1期	T1b1N0M0	鳥取大学 医学部附 属病院
			H21. 07. 30	鳥取県保健 事業団	class II					
			H22. 06. 13	鳥取県保健 事業団	判定可 ASC-US atrophic changes					
			H23. 06. 12	鳥取県保健 事業団	判定可 SCC Squamous cell carcinoma					
症例 3	41歳	米子市	H20. 08. 09	脇田ウイメン ズヘルスケア センター	class II コルポ診異常	鳥取大学医 学部附属病 院	Adenocarci- noma in situ	AIS	pTisNxM0	鳥取大学 医学部附 属病院
			H21. 09. 30	脇田ウイメン ズヘルスケア センター	class II コルポ診異常					
			H23. 07. 22	米子医療セ ンター	判定可 AGC glandular dys- plasia					
症例 4	50歳	琴浦町	H23. 06. 26	鳥取県保健 事業団	判定可 Adeno Ca Adenocarci- noma	鳥取県立厚 生病院	Adenocarci- noma in situ	AIS	pTisNxM0	鳥取大学 医学部附 属病院

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成25年2月23日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 陶 山 久 司

平成24年度 鳥取県立中央病院で診療した検診関連の肺癌症例

鳥取県立中央病院

内 科 陶山久司、澄川 崇、浦川 賢、杉本勇二

放射線治療室 内田伸江

放射線科 中村一彦

呼吸器心臓血管外科 万木洋平、前田啓之

症 例：70歳代、男性

現病歴：1週間前からの食思不振と背部痛を主訴に近医受診し胸部異常影を指摘され当院紹介となった。当院初診の直前に左下顎の抜歯を行い、創部からの出血が続いていた。

既往歴：特記事項なし

喫煙歴：15本×42年間

職 業：自営業、アスベスト暴露歴なし

経 過：右肺門部の腫瘍に対して超音波気管支鏡ガイド下吸引針生検を行い肺腺癌と診断された。全身検索の課程で胃・下顎病変からも生検が行われ転移として矛盾しないという病理結果を得た。骨シンチグラフィーでは多発性hot uptakeを指摘され、脳MRIでは脳転移を指摘された。最終的に肺腺癌 cT2aN2M1b stage IV 多発性骨転移、脳転移、頸部・腹部リンパ節転移と診断した。当院に気管支鏡目的で入院した時点で既にPS4だったため、殺細胞性抗癌剤投与は見送った。ご本人・ご家族の希望でEGFRおよびALK遺伝子検査結果を待つことになったが、この間に急激に状態が悪くなり緩和的対応に終始せざるを得ず、当院初診から1ヶ月で永眠された。EGFR遺伝子変異・ALK融合遺伝子とも陰性だった。

考 察：症例は当院初診の7ヶ月前に検診をうけておりC判定とされていた。その際の胸部レントゲン写真を供覧した。検診時の胸部レントゲン写真では、右気管傍線確認困難で上肺静脈幹と中下肺動脈幹の交差角の外側に膨隆する陰影があり、中間気管支幹外側の中下肺動脈幹腫大などの異常を認めた。更に1年前の胸部レントゲン写真でも傍気管線は不明瞭であった。見直し陽性となった遠因として、鳥取県東部ではフィルム読影からデジタルのモニター読影に移行した初年度であり過去フィルムとの比較が困難だった可能性が考えられる。本症例は転移巣としても比較的稀と思われる胃・下顎にも転移するまで医療介入が行われなかった。デジタル検診移行の際には比較読影に注意を要する。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 吹 野 俊 介

中部地区より2例の症例報告をしました。

症 例1：48歳、男性

主 訴：胸部異常陰影

既往歴：糖尿病

生活歴：たばこ 40本×28年

原病歴：毎年会社の検診では異常を指摘されたことはなかった。

平成24年5月の検診で胸部異常陰影を指摘され、近医を受診し当院紹介となった。自覚症状なし

身体所見：187cm、85kg

検査所見：HbA1Cが7.5、血液、生化学検査に異常なし。

腫瘍マーカー：正常範囲（CEA、SLX、SCC、シフラ、NSE、ProGRP）

呼吸機能：FVC 4.82L（107.0%）

FEV1.0 3.76L（78.0%）

臨床経過：平成22年の胸部Xpでは、左肺尖付近に第一肋骨に沿って線状陰影を認める。この時点での要精査は五分五分と言ったところと考える。平成23年の検診では同部の線状陰影が1cmの太さとなっている。そして平成24年の検診では左肺尖部に4cm大の腫瘤陰影を呈していた。CTで4cm大の肺がんと診断でき、すぐに手術施行した。

術中迅速診断で腺癌の診断を得て、胸腔鏡下左上葉切除術・ND2a-1を施行した。左S1+2に4.3cm大の腫瘍、P/D adenocarcinoma、papillary type、pl1、ly1、v2、p-T2aN0M0、pl1d0e0pm0（pl0）、p-1B期でした。術後経過良好で術後補助療法を行った。

症例2：63歳、男性

主訴：胸部異常陰影

既往歴：特記すべきことなし

生活歴：たばこ 30本×43年

現病歴：検診は毎年受けていたが異常を指摘されたことはなかった。

平成24年9月検診で胸部異常陰影を指摘され、他病院より当院紹介となった。自覚症状なし。

身体所見：158cm、55kg

検査所見：血液・生化学検査に異常なし。

腫瘍マーカー：正常範囲（CEA、SCC、シフラ、NSE、ProGRP）

呼吸機能：FVC 3.58L（103.7%）

FEV1.0 2.48L（69.3%）

臨床経過：平成23年と平成24年の胸部Xpを比較し直してみると、異常陰影は見あたらない。一応検診表では右下肺野の異常陰影となっているが、異常とは言えない。ところが胸部CTでは、右肺に異常なく左S3bに1.3cm大の辺縁にGGOを伴う小結節を認める。ちょうど左肺門の血管陰影と重なり胸部Xpでは写ってこない部位である。CT画像より、肺がんと診断して術中迅速診断で腺癌の診断を得て、胸腔鏡下左上葉切除術・ND2a-1を施行した。左S3bに1.1cm大の腫瘍、W/D adenocarcinoma、bronchioloalveolar type、pl0、ly0、v0、p-T1aN0M、pl0d0e0pm0（pl0）、p-1A期、野口分類Cでした。術後経過良好で補助療法なしで経過観察中である。

考察：症例1の如く2年前にかすかな線状陰影を認め、1年前にはその線状陰影が太くなっていることより強く肺癌を疑って要精査とすべきであった。そうすれば1A期での手術となったが、残念ながらさらに翌年の平成24年発見肺がんとなり1B期での手術となった。当院での肺がん切除例では5生率は、1A期で85.7%と高率であるが、1B期では68.7%と低下

する。17%の差があり、術後化学療法とともに嚴重なfollow upとしている。

症例2の異所性チェックは、肺がん検診ではしばしば認められることである。当院での肺がん手術例のうち、肺がん検診で発見されて手術となった症例は、平成23年は23例のうち異所性チェックで発見されたものは6例（26.1%）、平成24年では26例のうち異所性チェックが7例（26.9%）ある。この異所性チェックのうちわけは、GGO病変で胸部Xpに写らなかった症例が平成23年は4例、縦隔陰影と重なり写らなかった症例は2例であった。平成24年はGGO病変が3例、縦隔陰影との重なりが3例であった。

かすかな陰影や縦隔と重なる陰影をどこまでチェックするかは難しい問題である。肺がん死亡率抑制には、まず喫煙者に限定したCT検診が必要ではないかと考える。（喀痰細胞診よりの肺がん発見の減少を考慮して）

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 荒木 邦夫

症 例：66歳、女性

主 訴：左上肺野異常陰影

既往歴：特記事項なし

生活歴：喫煙歴なし

現病歴：胸部X線の検診歴は平成17年、21～24年と5回あり。平成21年に左上肺野異常陰影を指摘されE1判定となり、近医を受診するも経過観察となり、精査に発展せず。平成22～24年はC判定。平成24年10月感冒症状で近医を受診した際の胸部X線検査で左上肺野異常陰影を指摘される。胸部CT検査で左肺上葉の36mm大の腫瘍陰影が明らかとなり、肺癌の疑いで精査治療目的に当科紹介となる。FDG-PET検査ではリンパ節転移、他臓器転移の所見はなし。当院呼吸器内科での気管支鏡下生検の結果、肺腺癌と診断されたため、手術目的に当科入院となる。

治療経過：平成24年12月に手術を行った。術前に推定された大動脈や縦隔胸膜への浸潤はみられず、胸腔鏡下に左肺上葉切除+肺門縦隔リンパ節郭清を行った。術後経過は良好であり、再発予防目的に術後補助化学療法を現在施行中。

病理結果：浸潤性腺癌、混合型（微小乳頭状増生が優勢）、腫瘍径36mm、pT2aN1M0、p11、Lyl、V1、stageIIA。

検診上の問題点：平成21年の胸部X線検診でE1判定となったにもかかわらず、胸部CT検査等を行われず診断に至らず。その後C判定が続き、検診発見肺癌とならなかった。E1判定とされた時点で精査が行われていれば、早期肺癌として治療を行えた可能性がある。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成24年8月18日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

〔西部症例〕

提出者：博愛病院 角 賢 一

授乳期乳がんの2例

同愛会博愛病院 外科 角 賢一、安宅正幸、山田敬教、星野和義

症 例 1：平成21年8月 出産。

平成22年10月 左乳腺炎、硬結を繰り返すため紹介となる。受診時左乳房C領域に不整な腫瘍と腋窩リンパ節腫大を認めた。

術前化学療法FEC100 4クール、タキソール4クール後、乳房切除+腋窩リンパ節廓清施行。Invasive ductal carcinoma、solid-tubular carcinoma、化学療法により広範に変性Ef = grade 2、異型度grade 2、波及度 f、ly0、v0、EIC（-）、n（0/10）、stage 2a、ER（-）、PGR（-）（化学療法前（+））、HER2（-）。

術後、内分泌療法TAM+Lerprorelin+UFT施行。

症 例 2：平成23年年6月 帝王切開。

平成24年2月 左乳房腫瘍に気づき近医受診、当院紹介となる。受診時、左乳房C領域に長径3cmの不整腫瘍を認めた。穿刺吸引細胞診：scirrhous carcinoma。

乳房切除+腋窩リンパ節廓清施行。Invasive ductal carcinoma、papillotubular carcinoma、一部comedo（+）、異型度grade 2、波及度 f、ly0、v0、EIC（+）、n（0/10）、stage 2a、ER（-）、PGR（-）、HER2（+）。

術後、化学療法施行。

授乳期の乳房は発達しており、乳腺炎などの硬結と乳がんとの鑑別が難しい場合があり、通常の乳がんより進行している状態で発見されることが多く、注意が必要である。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部器官再生外科学 石 黒 清 介

症 例：1年で広範囲に伸展した乳腺神経内分泌癌の1例

41歳、女性

平成23年のマンモグラフィ検診で左乳房の異常（触診とマンモグラフィでC3の石灰化）を指摘され受診。超音波で異常なく、石灰化もびまん性であったためC2と判断し経過観察となった。1年後、左乳頭からの血性分泌と腫瘍を自覚して受診。触診では左C領域に索状の硬結を触知し、マンモグラフィはdense breastで石灰化はやや増加していた。超音波では癌を疑う結節性病変はなく、C領域を中心に低エコー領域が広範囲に広がっており、乳腺症を疑うエコー所見であった。しかし細胞診で乳癌と診断。T3N0M0、病期Ⅱbの診断で、胸筋温存乳房切除術を行った。センチネルリンパ節転移陽性であり、腋窩郭清を追加したが、最終病理では転移はセンチネルのみであった。組織は広範に乳管内伸展を示す乳頭腺管癌にSYP-MM 陽性の神経内分泌癌および粘液癌を合併していた。ER、PRともに陽性でHER2陰性であった。補助化学療法を行った後、乳房再建を行った。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成24年8月4日(土) 午後4時～午後5時40分

場 所 倉吉未来中心

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取生協病院 宮崎 慎一

症 例：59歳、男性

主 訴：なし

既往歴：特記事項なし

現病歴：平成23年7月の人間ドックにて便潜血反応陽性を指摘され、同年8月に下部消化管内視鏡検査を施行。横行結腸に1cm大の0-IIa+IIcを認めた。拡大観察にてSM深部浸潤癌が疑われたが、生検はGroup1。9月に再検し生検したところtub1であり、11月に腹腔鏡補助下横行結腸切除術を施行。

病 理：tubular adenocarcinoma (tub2)、pType 5、12×10mm、pSS、med、INFb、ly1、v2、pN0、pPM0、pDM0、pRM0、sH0、sP0、sM0、fStage II

検 討：1cm大の小さな癌ではあるが、深達度はSSで脈管侵襲も認められた。陥凹型大腸癌には十分注意すべきであると改めて考えさせられる症例であった。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 山本 宗平

症 例：63歳、女性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：平成21年大腸癌検診にて便潜血(−/−)

平成23年9月5日便潜血(+/-)にて当院初診。9月11日精査目的に下部消化管内視鏡検査施行。

既往歴：なし

アレルギー：なし

経 過：下部消化管内視鏡にて上行結腸に20mm IIaを指摘された。陥凹部Vi型pit patternをしめした。

生検にて高分化管状腺癌を認めた。

その後、再検してEMR試みたが局注にてnon liftingであった。EUSにて深達度評価困難であった。

手術によって切除となり、高分化管状腺癌sm浸潤400μmであった。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 向山 智之

症 例：60代、女性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：毎年大腸がん検診を受診。前年まで異常を指摘されず。

平成22年の大腸がん検診で初めて便潜血陽性を指摘され当院紹介受診。

既往歴：特記なし。

検査結果・経過：同年8月下旬消化管内視鏡検査を施行。

盲腸部に2型腫瘍を認め、生検で中分化型腺癌と診断。当院で外科手術を行った。
病理診断：盲腸部を占拠部位とする28×30mm大の2型進行癌。
深達度はssでly1、v0、病理学的病期はstage II（pT3、pN0、M0）であった。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成25年3月2日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満田 朱里

他疾患にて病院あるいは診療所に通院中であつたが、肝細胞癌の発見が遅れた症例を4例呈示した。

症 例 1：76歳、男性

主 訴：無し

生活歴：飲酒なし、喫煙なし

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：高血圧、糖尿病、高尿酸血症、喘息

現病歴：20年前より高血圧、糖尿病等にて当科通院中、平成23年12月、胆道系酵素上昇あり、3月腹部超音波検査施行。肝内に巨大SOLあり、翌日肝ダイナミックCT施行し、肝細胞癌と診断。それまで全く自覚症状はなかつた。12年前に腹部超音波検査をしてから腹部精査はしていなかつた。また、経過中糖尿病コントロールの悪化は認めていない。

入院時検査所見：WBC 9000/ μ l、Hb15.4g/dl、Plt 35.9万/ μ l、T. bil 0.9mg/dl、D. bil 0.3mg/dl、AST 54IU/l、ALT 35IU/l、LDH 287IU/l、ALP 1176IU/l、 γ -GTP 552IU/l、TP 8.1g/dl、Alb 4.0g/dl、ChE 265IU/l、T. Chol 269mg/dl、FBS 98mg/dl、PT 109%、ICG-R₁₅16%、HBsAg (-)、HBsAb (+)、HBcAb 10.96s/co、HCV Ab (-)、抗核抗体80倍、抗DNA抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陰性、AFP 792000ng/ml、PIVKA II 2086mAU/ml

画像検査：肝ダイナミックCT；肝右葉全域を占拠する14cm大の巨大腫瘍を認め、造影早期にて辺縁を中心に濃染、平衡相でwash outを呈し肝細胞癌と診断。門脈右枝は狭窄し、中肝静脈および下大静脈は強く圧迫されていた。

経 過：同年4月外科にて拡大右葉切除が施行された。背景肝は慢性肝炎であり、腫瘍は15cm大の高>中分化型肝癌（肉眼型：多結節癒合型）であつた。

症 例 2：82歳、女性

主 訴：無し

生活歴：飲酒なし、喫煙なし

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：全身性エリテマトーデス（SLE）、高血圧

現病歴：11年前よりSLEにて当科通院加療中、平成21年3月には腹部超音波検査施行するも脂肪肝のみであつた。平成24年5月、肉眼的血尿の検査にて腹部超音波検査施行したところ、肝腫瘍を認めた。翌々日に肝ダイナミックCT施行し、肝細胞癌と診断した。

入院時検査所見：WBC 4900/ μ l、Hb 10.7g/dl、Plt 12.9万/ μ l、T. bil 0.8mg/dl、AST 49IU/l、ALT 37IU/l、LDH 227IU/l、ALP173 IU/l、 γ -GTP 37IU/l、TP 6.7g/dl、Alb 4.3g/dl、ChE 187IU/l、T. Chol 195mg/dl、FBS 91mg/dl、PT 91%、ICG-R₁₅ 14%、HBsAg (-)、HCVAb (-)、AFP 68000ng/ml、PIVKA II未測定

画像検査：

ダイナミックCT；肝ドーム下に60mm大の腫瘤性病変を認め、早期濃染あり、後期相ではwash outも認め、肝細胞癌と診断した。脂肪肝あり。

経過：外来通院中は、同年2月に嘔気および食欲不振にて入院歴あるも上部消化管内視鏡検査のみであり、腹部超音波検査や腹部CTは施行されていなかった。同年7月に外科にて肝部分切除が施行された。背景肝は肝硬変であった。腫瘍は75mm大の中>高分化型肝癌と5mm大の高分化型肝癌であった。

症 例 3：71歳、女性

主 訴：無し

生活歴：飲酒なし、喫煙なし

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：高血圧

現病歴：高血圧、高脂血症にて他院通院中、同医院閉院に伴い、他の開業医に転院した。血圧コントロール不良であり、また、血液検査にて γ -GTPの上昇、腹満や浮腫あり、当院循環器科に紹介受診となる。腹部エコーにて肝腫瘤あり、当科紹介となる。

入院時検査所見：WBC 7900 μ l、Hb 11.9g/dl、Plt 40.1万/ μ l、T. bil 5.7mg/dl、AST 175IU/l、ALT 61IU/l、LDH 275IU/l、ALP 1217IU/l、 γ -GTP 645IU/l、TP 7.5g/dl、Alb 4.3g/dl、ChE 388IU/l、T. Chol 461mg/dl、FBS 98mg/dl、PT 109%、HBsAg (-)、HBsAb (+)、HBcAb低力価、HBV DNA検出せず、HCVAb (-)、抗核抗体80倍、抗DNA抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陰性、AFP 20000ng/ml、PIVKA II 2086U/ml

画像検査：ダイナミックCT；肝左葉・右葉前区域のほぼ全域を占拠する腫瘍を認め、肝右葉後区域にも複数個の結節あり、低分化型肝細胞癌と診断。また、肝内胆管拡張を認め、胆管浸潤が疑われた。門脈腫瘍栓あり。

経過：腹部血管造影検査後、CDDP110mgによる肝動注化学療法施行した。治療後肝不全が進行し、治療から約1カ月後に亡くなった。

症 例 4：72歳、男性

主 訴：ショック状態

生活歴：飲酒；ビール350ml/日、喫煙5～6本/日

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：糖尿病、慢性腎不全、心不全、徐脈性心房細動（ペースメーカー植え込み後）

現病歴：糖尿病や慢性心不全等にて20年前より通院中、コントロール不良のため入退院を繰り返していた。5年前に腹部USにて肝硬変が疑われた。腎不全にて3年前より血液透析中。平成24年2月の他院での単純CTでは脂肪肝のみの指摘であった。同年5月、ショック状態にて当院へ救急搬送される。腹水貯留あり、試験穿刺にて血性腹水であり、入院となる。

入院時検査所見：WBC 12400 μ l、Hb 6.9g/dl、Plt 18.4万/ μ l、T. bil 2.3mg/dl、AST 179IU/l、ALT 124IU/l、LDH 533IU/l、FBS 25mg/dl、CRP 3.9mg/dl、BNP 263pg/ml、PT 7%、HBsAg (-)、HCVAb (-)、AFP 3ng/ml、PIVKA II 75000U/ml（ワーファリン内服中）

経過：造影CTにて肝右葉に腫瘍を認め、一部肝外に突出しており、肝細胞癌破裂による腹腔内

出血および出血性ショックと診断した。門脈腫瘍塞栓も疑われた。輸血等保存的加療を行い、止血したと思われたが、肝不全進行し、約1カ月後に亡くなった。病理解剖を行ったところ、背景肝は肝硬変であった。腫瘍は65mm大の中分化型肝癌であり、肉眼的にて肝癌の表面に破裂孔が見られた。また、高度な門脈腫瘍栓を認めた。

考 察：4症例を呈示したが、どの症例もHBsAg陰性HCVAb陰性であり、肝癌検診の対象とならない症例である。肝細胞癌は自覚症状がないものがほとんどであり、これらの症例も肝細胞癌のサイズが大きく、発見が遅れたと言える。画像やdataからは肝硬変と診断つかない症例もあり、慢性肝障害の定期検査が不十分となっていることが案じられる。特にHBVやHCV陰性の場合には通院中であっても肝スクリーニングはされていないことが多いと思われる。糖尿病、飲酒・喫煙家、脂肪肝、慢性肝機能障害の症例においては肝癌発生の可能性を念頭におき、診療する必要がある。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 万 代 真 理

検診にて発見された初発肝細胞癌の一例

鳥取県立厚生病院

万代真理、山本宗平、永原天和、山本了、野口直哉、佐藤徹、秋藤洋一

症 例：60才代、男性

主 訴：肝腫瘍精査目的

現病歴：20年ほど前にHBsAg陽性を指摘。55才時肝障害にて入院加療を受けた。以後、近医加療中であった。平成24年12月初旬に検診にて前医受診し、肝内に20mm大の腫瘍を認め、紹介受診となる。

既往歴：痔核手術、扁桃摘出術、虫垂切除、輸血歴はなし

生活歴：飲酒 3—5合。喫煙なし。

家族歴：母親HBV陽性。5人兄弟の内3人が肝疾患で死去（詳細不明）。

現 症：血圧171/90mmHg、結膜 貧血黄疸なし。前胸部にクモ状血管腫あり。腹部は平坦・軟・圧痛を認めず。右季肋部に肝1横指触知。下腿浮腫認めず。

初診時検査所見：WBC 4070/ μ l、RBC 4.5×10^4 / μ l、Hb 14.6g/dl、Plt 14×10^4 / μ l、PT 84%、T.P 6.8g/dl、Alb 3.4g/dl、T.Bil 0.6mg/dl、AST 61IU/L、ALT 169IU/L、ALP 357IU/L、 γ -GTP 121IU/L、HBsAg/Ab +/-、HBeAg/Ab -/+、HCV-Ab 陰性、AFP 17KIU/ml、PIVKA-II 25mAU/ml、CEA 3.9mg/dl、CA19-9 3.4mg/dl

腹部超音波検査：肝S5に18×13mm大の辺縁高エコー、内部低エコーの腫瘍を認める。

肝dynamicCT：S5に単純で15mmの境界不明瞭なやや低吸収域を認め、同結節は造影早期・門脈相・平衡相とも濃染を認めなかった。

EOB-MRI：S5の結節は肝細胞相でやや取り込みの低下を認めた。

肝血管造影：DSAで腫瘍濃染は明らかではなく、S5結節はCTAPで不完全欠損、CTHAで等吸収を示した。また、肝動脈は蛇行しており、背景肝が肝硬変へ進展していることが伺えた。

肝腫瘍生検：高分化索状型肝細胞癌

治療経過：18mm大の単発の肝細胞癌、肝予備能はChild-Pugh 5点Aであり、腫瘍が肝表面に位置し大腸と接しているため、人工腹水下にラジオ波焼灼術を施行した。

考 察：肝細胞癌発症の高危険群とサーベイランスのガイドラインが定められているが、通常B型

肝硬変症では超高危険群として3—4ヶ月に1回の腹部超音波検査と6—12ヶ月ごとにCTあるいはMRIを併用することが推奨されている。また、男性、高齢、およびアルコール多飲で発癌の危険性が増大すると言われている。本症例はHBV陽性のアルコール多飲者であり、背景肝は肝硬変まで肝線維化が進行していると思われた。残念ながら定期的な画像検査は行われておらず、サーベイランスが十分行われているとはいえなかった。また、ALT上昇、HBV-DNA陽性があり、抗ウイルス薬の適応と思われエンテカビルの内服を開始とした。HBV-DNA量が多いほど発癌のリスクが高まることが報告されており、このたび発癌を生じたことより、今後の発癌予防という点からも、抗ウイルス薬の開始が望ましいと考えた。

結 語： 検診で発見された初発肝細胞癌の一例を経験した。検診が早期発見に貢献した一例であったが、肝発癌危険群としてのスクリーニングが十分行われていなかったことは、今後の課題と思われた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

HBs抗体陽転後14年目に発症したHCCの1例

山陰労災病院 消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、前田直人、森尾慶子、角田宏明、
向山智之、神戸貴雅、謝花典子、古城治彦、川崎寛中
外科 豊田暢彦、放射線科 井隼孝司、病理 庄盛浩平

症 例：70歳代男性。主訴はAFP軽度上昇。

現病歴：35年前B型肝炎と診断され、近医で腹腔鏡検査を施行。

H6年8月s抗原、s抗体ともに陰性化を確認。H9年s抗体2⁺陽転化した。

その後半年毎にUS通院観察を行った。H23年7月AFPの軽度上昇（87ng/ml）を指摘。

造影CTで肝S4の肝外性に突出した2.3cmの結節を認め入院。

家族歴：父HCC、生活歴：喫煙10本/日×50年、飲酒なし

現 症：特記事項なし。

検査成績：末梢血液）WBC3200/ μ l、Hb14.2g/dl、Plt 7.3×10^4 / μ l、PT107%、線維化マーカー）
HA 81ng/ml軽度上昇。

生化学）AST29、ALT25、TBil0.6、Alb3.9、ICG-R17.1%、ICG-K 0.145

腫瘍マーカー）AFP87ng/ml軽度上昇、PIVKA-II 12mAU/ml、

HBVマーカー）s抗原陰性0.1、s抗体陽性64.1、e抗原陰性<0.5、e抗体陰性48%、
c抗体11.1（200x）、HBVDNA検出せず。HCVAb陰性

画像検査）US：表面平滑・内部均一で、肝臓やや萎縮傾向。

造影CT：肝外突出発育型のHCC（S4）と診断した。

DSA：左肝動脈内側枝の関与、S4の肝外突出性結節状濃染を認め

DSACT：肝外突出性HCC（Vp1, stage3）と診断された。

治療として、外科的部分切除術（S4a）が行われた。

病理：1）非癌部は、F0A0と診断され、炎症や線維化は見られなかった。

2）癌部：HCC, well differentiated, Clear cell、pT1（1.1cm）、ly（0）、V0、免疫染色）AFP（+）、Ki67index（<1%）

CD34（腫瘍内血管+）、CK7（-）、Stage2：T2N0M0と診断された。

考 察：過去3年間に肝がん検診で呈示したHBVキャリア発症HCCの3例を比較検討した。年齢

は、69-77歳（平均73.3）、飲酒癮を2例に認め、観察期間は2-15年（平均10.3）、血小板減少は1例のみ、s抗原は全例陰性化し、2例がs抗体陽転化していた。腫瘍マーカーは1例だけがAFP軽度上昇を示した。画像検査は特に重要で、2例がUSで、1例が造影CTで発見された。

まとめ：1. HBs抗体陽転後14年目に発症したHCCの1例を経験した。

2. 高齢男性、飲酒家の慢性肝炎像を呈するHBVキャリアは、根気強くフォローする必要性を感じた。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	14	26	349	3	11	67	28	4,451	678	45	4,488	1,094
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	5	14	68	12	66	152	6	26	78	23	106	298
乳 がん	1	7	29	2	15	50	1	6	34	4	28	113
大腸がん	9	15	298	4	4	69	26	90	614	39	109	981
肝臓がん	2	3	118	5	13	104	5	11	103	12	27	325
合 計	31回			26回			66回			123回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	H25. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	
肺がん一次検診医療機関	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	
乳がん一次検診医	H24. 4. 1～H27. 3. 31	H26年度中	H24. 4. 1～H27. 3. 31
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H24. 4. 1～H27. 3. 31	H26年度中	H24. 4. 1～H27. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H24. 4. 1～H27. 3. 31	H26年度中	H24. 4. 1～H27. 3. 31
肺がん検診精密検査	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
乳がん検診精密検査	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
大腸がん検診精密検査	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H25. 4. 1～H28. 3. 31	H27年度中	H25. 4. 1～H28. 3. 31

※大腸がん検診精密検査は、平成20年3月に国が示したがん検診実施のための指針において、第一選択は全大腸内視鏡検査とされていることから、平成24年度の委員会において、検討を重ねた結果、本県においても指針に沿った検査体制が可能であることから、注腸X線検査医療機関登録は平成25年3月31日をもって廃止。

ただし、国の指針においても全結腸内視鏡検査を行うことが困難な場合、S状結腸内視鏡検査と注腸X線検査の併用による精密検査を実施することとされており、各地区大腸がん注腸読影委員会は継続設置することが承認され、これに伴い、「鳥取県大腸がん検診注腸エックス線検査医療機関登録実施要綱」の廃止及び「鳥取県大腸癌検診実施に係る手引き」の一部改正を行い、平成25年度検診から適用することとなりました。

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコーピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できることが望ましい。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい。）
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、少なくとも血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査及びHCV-RNA検査（アンプリコア定性法）が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンターマルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（携帯型超音波装置は除く。）

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数	
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点	
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点	（鳥根県開催も対象）
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点	
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点	
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点	
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点	
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点	
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点	
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点	
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点	
山陰肝癌治療研究会	全県 1回/年	3点	

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、次のいずれかを受講すること。
 - (1) 原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。
 なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
 - (2) (1)の講習会を受ける事ができなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から(1)に準じた指導を受けること。この場合、指導した医師が、一次検診医として十分能力が得られたと認定した時点をもって終了する。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
 - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
 - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

あ と が き

検診事業の運営上、重要な一面を占める精度管理については、鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会の各部会と鳥取県健康対策協議会の各検診対策専門委員会との合同会議で検討を重ね、会長の言葉にもあるように一層の向上に努めております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第19報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

発刊に際し、県医師会長岡本公男先生に御指導を戴きました。また、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理事 吉 中 正 人